

ALPS処理水海洋放出の状況等について

2025年12月15日



東京電力ホールディングス株式会社

【ALPS処理水の海洋放出の状況】

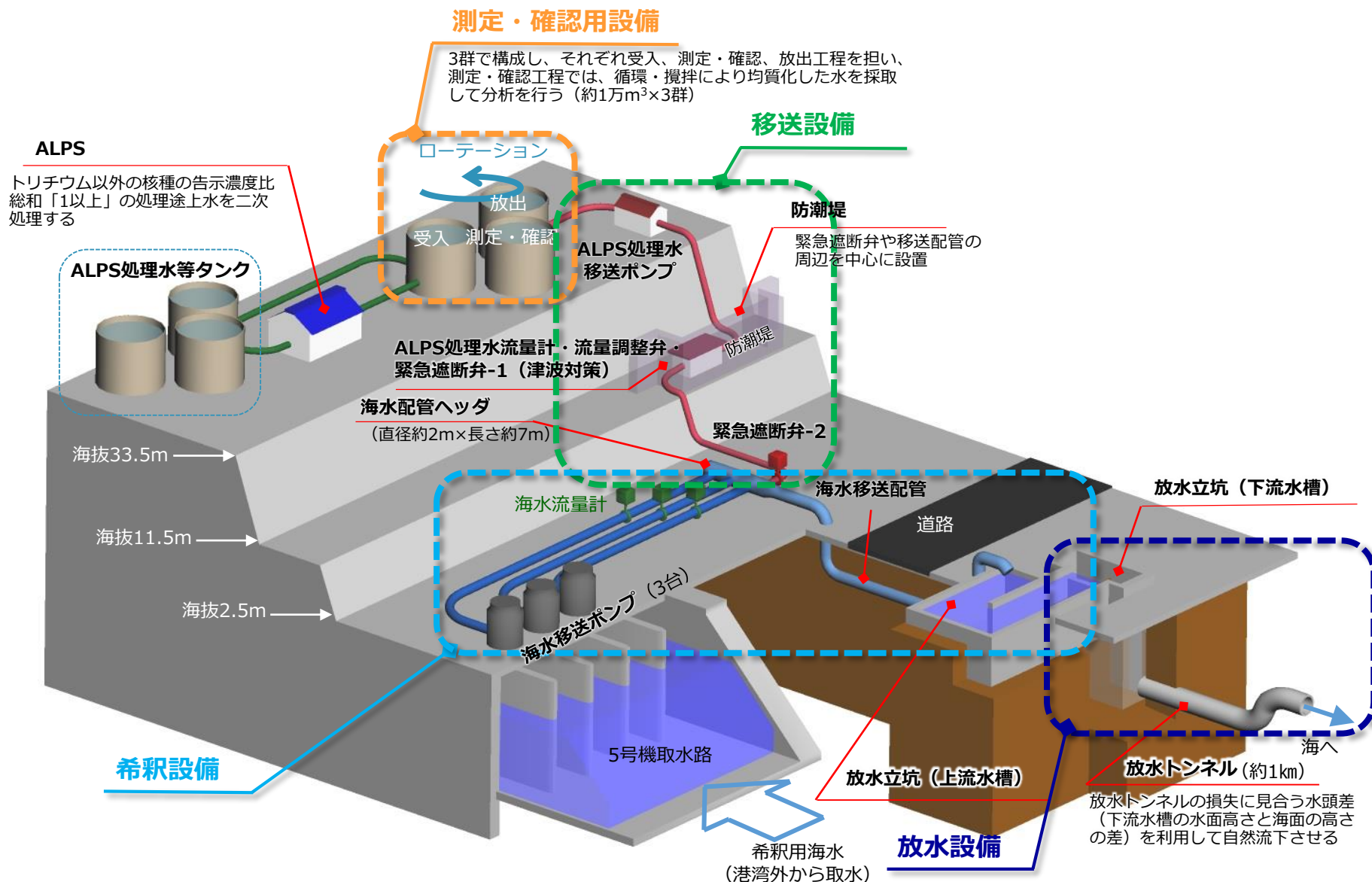
- 2023年8月からALPS処理水の海洋放出を開始し、これまで計**16**回の海洋放出を実施。累計のALPS処理水放出量・トリチウム放出総量は下表の通り。
(2025年12月4日から、17回目の海洋放出を実施中。)

	ALPS処理水放出量[m ³]	トリチウム放出総量[ベクレル]
2023年度	31,145	約4.5兆
2024年度	54,999	約12.7兆
2025年度※	39,344	約 11.6 兆
累計	125,488	約 28.8 兆

※:2025年11月25日時点

- ALPS処理水海洋放出の開始以降、放出期間中のALPS処理水希釈放出設備の運転パラメータに異常はなく、また、海域モニタリングにおいても、海水中のトリチウム濃度に異常な値は確認されていない。**本日、至近の放出状況についてご報告。**（第1,2項参照）
- ALPS処理水希釈放出設備は、設備の健全性維持を目的に計画的な設備点検を実施。**本日、2025年度の点検概要、一部点検結果についてご報告。**（第3項参照）
- 引き続き、ALPS処理水の海洋放出を安全・安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組む。

【補足】ALPS処理水希釈放出設備の全体図

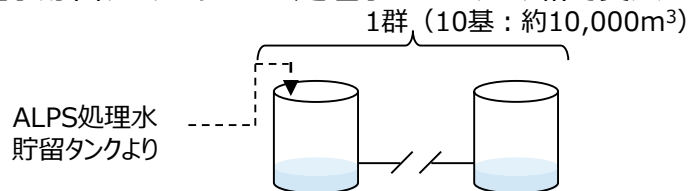


【補足】ALPS処理水希釈放出設備の運用（1/3）

- タンク群毎に、下記①～③の工程をローテーションしながら運用すると共に、②測定・確認工程では、循環・攪拌により均質化した水を採取して分析を行う。

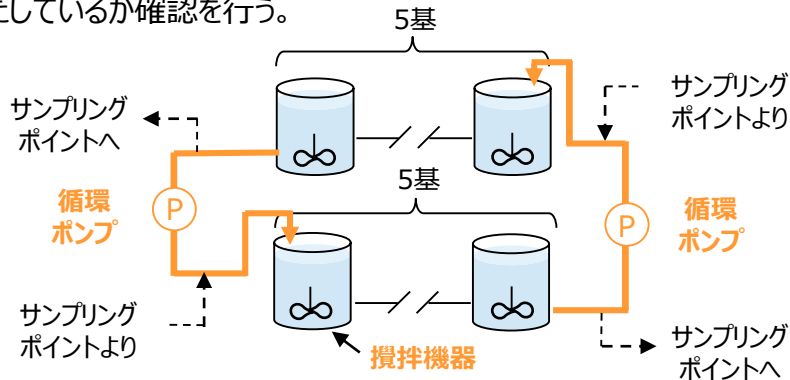
①受入工程

ALPS処理水貯留タンクよりALPS処理水を空のタンク群で受入れる。



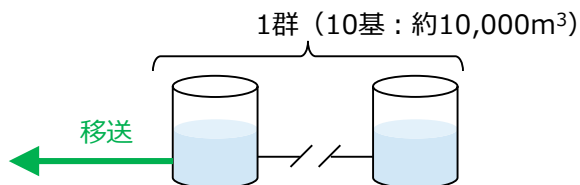
②測定・確認工程

攪拌機器・循環ポンプにてタンク群の水質を均質化した後、サンプリングを行い、放出基準を満たしているか確認を行う。

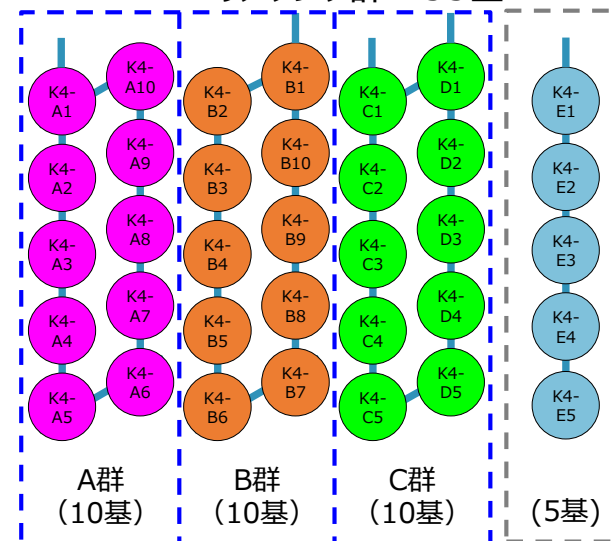


③放出工程

放出基準を満たしていることを確認した後、ALPS処理水を移送設備により希釈設備へ移送する。



K4エリアタンク群：35基



	A群	B群	C群
1周目	受入	—	—
2周目	測定・確認	受入	—
3周目	放出	測定・確認	受入
4周目	受入	放出	測定・確認
...	測定・確認	受入	放出

【補足】ALPS処理水海洋放出時の分析項目

- ALPS処理水の海洋放出前に放出基準（トリチウムを除く放射性核種の告示濃度比の和が1未満）を満足しているかを確認するために、その対象となる核種（測定・評価対象核種）として、現在29核種を分析。

測定・評価対象核種：29核種

C-14 炭素	Co-60 コバルト	Sr-90 ストロンチウム	Ru-106 ルテニウム	Te-125m テルル	Cs-137 セシウム	Eu-154 ユウロピウム	U-238 ウラン	Pu-239 プルトニウム	Am-241 アメリシウム
Mn-54 マンガン	Ni-63 ニッケル	Y-90 イットリウム	Cd-113m カドミウム	I-129 ヨウ素	Pm-147 プロメチウム	Eu-155 ユウロピウム	Np-237 ネプツニウム	Pu-240 プルトニウム	Cm-244 キュリウム
Fe-55 鉄	Se-79 セレン	Tc-99 テクネチウム	Sb-125 アンチモン	Cs-134 セシウム	Sm-151 サマリウム	U-234 ウラン	Pu-238 プルトニウム	Pu-241 プルトニウム	

告示濃度比総和として評価し、1未満であることを確認

H-3
トリチウム

希釈後のトリチウム濃度（運用値）が700ベクレル/ℓ未満となる希釈倍率を設定するために測定

- なお、以下については、海洋放出の前に、当社が自主的に確認。
 - ✓ ALPS除去対象核種のうち、測定・評価対象核種に含まれない核種（39核種）について、有意に存在していないこと。
 - ✓ 一般水質について、基準値※を満足していること。

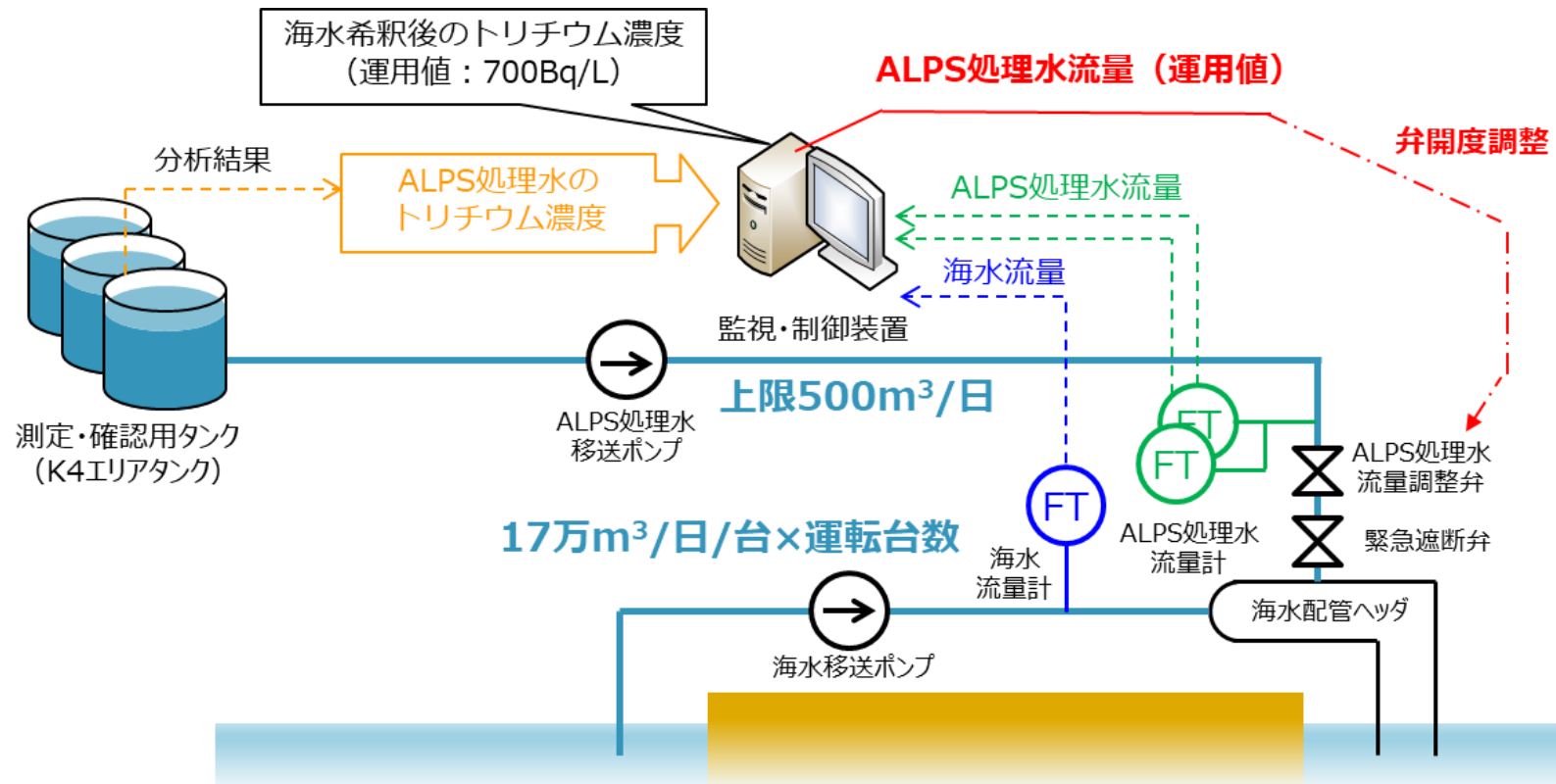
※:福島県「大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例(別表第2)」, 「福島県生活環境の保全等に関する条例施行規則(別表第5)」に基づく。

【補足】ALPS処理水希釈放出設備の運用（2/3）

- ALPS 処理水の海水への混合希釈率の調整は、海水移送ポンプを定格運転とするため、ALPS 処理水流量を制御する設計としている。
- 具体的には、ALPS処理水のトリチウム濃度及び海水流量から、海水希釈後のトリチウム濃度が700ベクレル/リットル未満となるようにALPS処理水流量を制御。

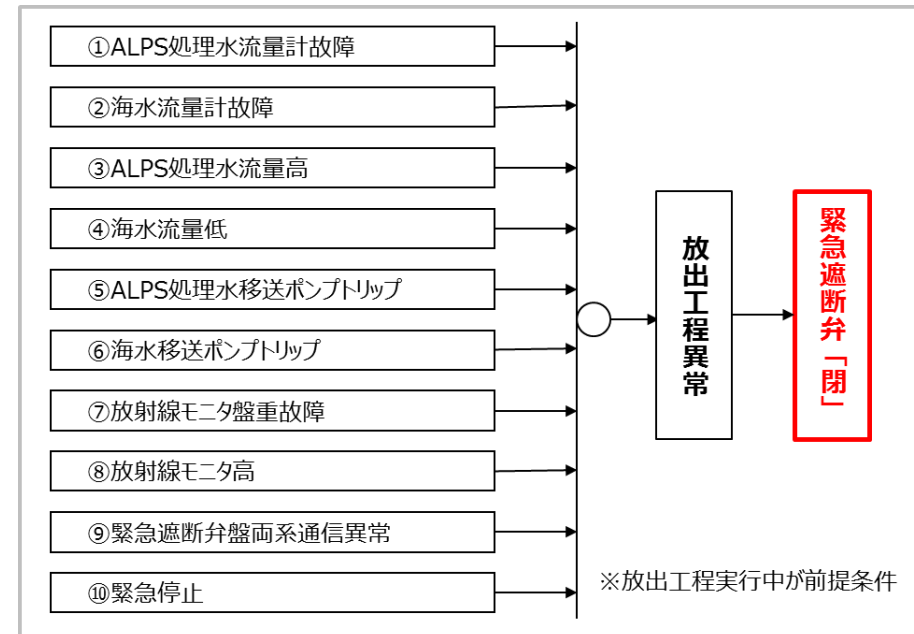
○ALPS処理水流量算出式

$$\text{ALPS処理水流量（運用値）} = \frac{\text{海水流量} \times \text{海水希釈後のトリチウム濃度（運用値：700Bq/L）}}{\text{ALPS処理水のトリチウム濃度} - \text{海水希釈後のトリチウム濃度（運用値：700Bq/L）}}$$

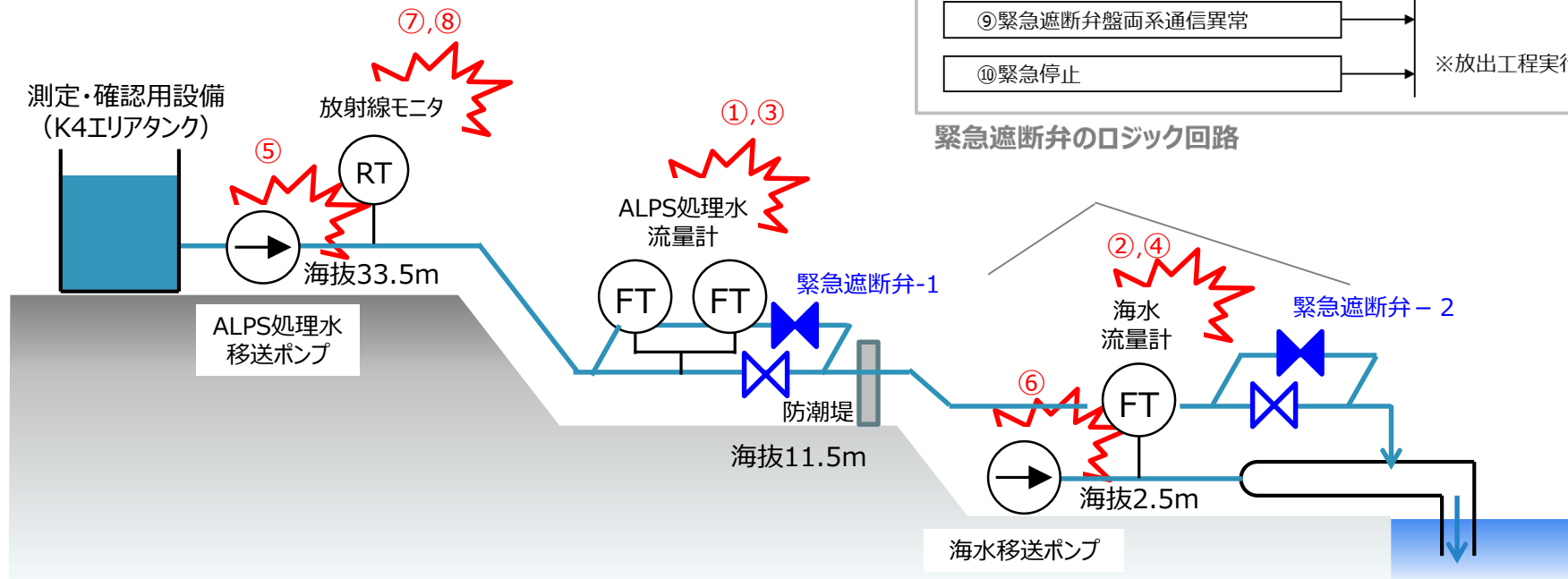


【補足】ALPS処理水希釈放出設備の運用（3/3）

- ALPS処理水の海洋放出中は、各機器の状態を監視し、下図に示す異常を検知した場合、緊急遮断弁が“閉”となるインターロックを組んでいる。
- これにより『意図しない形でのALPS処理水の海洋放出』を防止する設計となっている。
- なお、以下の事象が発生した際には、手動停止操作を行う。
 - ALPS処理水希釈放出設備及び関連施設に影響を及ぼしうる**自然現象等が発生した場合**(P27参照)
 - **海域モニタリングで異常値**が検出された場合(P30参照)
 - その他当直長が必要と認める場合



緊急遮断弁のロジック回路



1. 前回報告以降(管理番号:25-4-15以降)の放出実績について

- ALPS処理水海洋放出の実績については、第118回（2025年9月28日）の特定原子力施設監視・評価検討会にて、管理番号：25-3-14の放出実績まで報告済み。
- 今回、25-5-16の放出実績及び25-6-17の放出状況（下表赤枠内）について報告※。

※25-4-15については、
（参考1）参照。

管理番号	放出タンク群	トリチウム濃度	放出開始	放出終了	放出量	トリチウム総量
23-1-1	B群	14万ベクレル/ℓ	2023年8月24日	2023年9月11日	7,788m ³	約1.1兆ベクレル
23-2-2	C群	14万ベクレル/ℓ	2023年10月5日	2023年10月23日	7,810m ³	約1.1兆ベクレル
23-3-3	A群	13万ベクレル/ℓ	2023年11月2日	2023年11月20日	7,753m ³	約1.0兆ベクレル
設備点検を実施						
23-4-4	B群	17万ベクレル/ℓ	2024年2月28日	2024年3月17日	7,794m ³	約1.3兆ベクレル
24-1-5	C群	19万ベクレル/ℓ	2024年4月19日	2024年5月7日	7,851m ³	約1.5兆ベクレル
24-2-6	A群	17万ベクレル/ℓ	2024年5月17日	2024年6月4日	7,892m ³	約1.3兆ベクレル
24-3-7	B群	17万ベクレル/ℓ	2024年6月28日	2024年7月16日	7,846m ³	約1.3兆ベクレル
24-4-8	C群	20万ベクレル/ℓ	2024年8月7日	2024年8月25日	7,897m ³	約1.6兆ベクレル
24-5-9	A群	28万ベクレル/ℓ	2024年9月26日	2024年10月14日	7,817m ³	約2.2兆ベクレル
24-6-10	B群	31万ベクレル/ℓ	2024年10月17日	2024年11月4日	7,837m ³	約2.4兆ベクレル
設備点検を実施						
24-7-11	C群	31万ベクレル/ℓ	2025年3月12日	2025年3月30日	7,859m ³	約2.4兆ベクレル
25-1-12	A群	37万ベクレル/ℓ	2025年4月10日	2025年4月28日	7,853m ³	約2.9兆ベクレル
25-2-13	C群	25万ベクレル/ℓ	2025年7月14日	2025年8月3日	7,873m ³	約2.0兆ベクレル
25-3-14	A群	38万ベクレル/ℓ	2025年8月7日	2025年8月25日	7,908m ³	約3.0兆ベクレル
25-4-15	B群	21万ベクレル/ℓ	2025年9月11日	2025年9月29日	7,872m ³	約1.7兆ベクレル
25-5-16	C群	25万ベクレル/ℓ	2025年10月30日	2025年11月17日	7,838m ³	約2.0兆ベクレル
25-6-17	A群	31万ベクレル/ℓ	2025年12月4日	2025年12月22日	7,800m ³	約2.4兆ベクレル
設備点検を実施						
25-7-18	B群	26万～27万ベクレル/ℓ	2026年3月頃	－	7,800m ³	約2.0兆ベクレル

1－1．測定・確認用タンク水（管理番号:25-5-16）の分析結果

- 2025年9月12日に測定・確認用タンク(C群)から採取したサンプルについて、排水前分析結果が得られ、**放出基準を満足していることを確認**（表1，2025年10月28日公表）
 - 項目①：測定・評価対象核種(29核種)の**告示濃度比総和は0.14**となり、1未満であることを確認
 - 項目②：トリチウム濃度の分析結果は**25万Bq/L**となり、100万Bq/L未満であることを確認
 - 項目①／②：当社委託外部機関（株式会社化研）および国が行う第三者（日本原子力研究開発機構）※1の分析においても、同様の結果が得られたことを確認
 - 項目③／④：運用目標を満足していることを確認

※1 ALPS処理水の第三者分析
(<https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/alps/>)

表1．測定・確認用タンク水(管理番号:25-5-16)の排水前分析結果

測定項目		要求根拠	運用目標	分析結果
①	測定・評価対象核種(29核種)	実施計画	トリチウム以外の放射性核種の告示濃度比の和が1未満	0.14 (<1)
②	トリチウム		トリチウム濃度が100万Bq/L未満	25万Bq/L (<100万Bq/L)
③	自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)	自主管理	対象とする核種が有意に存在していないことを確認	全ての核種で有意な存在なし
④	一般水質 44項目		水質基準の事前確認※2	全ての項目で基準値を満足

※2 同項目について、年1回の放水立坑(上流水槽)サンプリングにて、法令要求を満足することを確認

【補足】測定・確認用タンク水(管理番号:25-5-16)の排水前分析結果(1/4)



■ 測定・評価対象核種(29核種)の告示濃度比総和は0.14となり、1未満であることを確認

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (1/4)

試料名		ALPS処理水 測定・確認用タンク水				C群		要約		
採取日時		2025年9月12日		9時24分				測定・評価対象核種(29核種) 告示濃度比総和 0.14 (1未満を確認)		
貯留量 (m³)		8943								

放射能分析 測定・評価対象核種(29核種)											
No.	核種	分析結果						告示濃度限度に対する比		告示濃度限度 ※2 (Bq/L)	分析値の求め方 ※4
		東京電力	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	(株)化研	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	東京電力	(株)化研		
1	C-14	3.7E+01	± 2.9E+00	1.8E+00	3.3E+01	± 1.9E+00	9.9E-01	1.9E-02	1.6E-02	2000	測定
2	Mn-54	ND	—	2.3E-02	ND	—	2.0E-02	2.3E-05 未満	2.0E-05 未満	1000	測定
3	Fe-55	ND	—	1.4E+01	ND	—	1.4E+01	7.1E-03 未満	6.9E-03 未満	2000	測定
4	Co-60	4.1E-01	± 7.4E-02	2.5E-02	4.0E-01	± 5.3E-02	1.9E-02	2.0E-03	2.0E-03	200	測定
5	Ni-63	ND	—	8.9E+00	ND	—	5.1E+00	1.5E-03 未満	8.5E-04 未満	6000	測定
6	Se-79	ND	—	1.1E+00	ND	—	1.6E+00	5.4E-03 未満	7.8E-03 未満	200	測定
7	Sr-90	1.1E+00	± 4.7E-02	3.6E-02	1.1E+00	± 1.4E-01	3.2E-02	3.7E-02	3.7E-02	30	測定
8	Y-90	1.1E+00	—	3.6E-02	1.1E+00	—	3.2E-02	3.7E-03	3.7E-03	300	Sr-90/Y-90放射平衡評価
9	Ta-99	ND	—	3.5E-01	ND	—	3.2E-01	3.5E-04 未満	3.2E-04 未満	1000	測定
10	Ru-106	ND	—	2.2E-01	ND	—	1.8E-01	2.2E-03 未満	1.8E-03 未満	100	測定
11	Cd-113m	ND	—	7.0E-02	ND	—	6.0E-02	1.7E-03 未満	1.5E-03 未満	40	測定
12	Sb-125	1.7E-01	± 6.3E-02	8.4E-02	1.7E-01	± 6.0E-02	8.3E-02	2.1E-04	2.1E-04	800	測定
13	Te-125m	6.2E-02	—	3.1E-02	6.2E-02	—	3.1E-02	6.9E-05	6.9E-05	900	Sb-125/Te-125m放射平衡評価
14	I-129	3.7E-01	± 3.1E-02	1.2E-02	3.5E-01	± 6.0E-02	2.0E-02	4.1E-02	3.9E-02	9	測定
15	Cs-134	ND	—	2.7E-02	ND	—	2.6E-02	4.5E-04 未満	4.3E-04 未満	60	測定
16	Cs-137	2.1E-01	± 4.2E-02	2.2E-02	2.0E-01	± 3.1E-02	2.2E-02	2.3E-03	2.3E-03	90	測定
17	Pm-147	ND	—	3.0E-01	ND	—	2.5E-01	1.0E-04 未満	8.5E-05 未満	3000	Eu-154相対比評価
18	Sm-151	—	—	1.2E-02	ND	—	9.7E-03	1.4E-06 未満	1.2E-06 未満	8000	Eu-154相対比評価
19	Ce-139	ND	—	6.8E-02	ND	—	5.7E-02	1.7E-04 未満	1.4E-04 未満	400	測定
20	Eu-155	ND	—	1.6E-01	ND	—	1.3E-01	5.5E-05 未満	4.4E-05 未満	3000	測定
21	U-234	—	—	—	—	—	—	20	全α	20	全α
22	U-238	—	—	—	—	—	—	20	全α	20	全α
23	Np-237	—	—	—	—	—	—	9	全α	9	全α
24	Pu-238	ND	—	2.7E-02	ND	—	2.4E-02	6.7E-03 未満 ※3	6.0E-03 未満 ※3	4	全α
25	Pu-239	—	—	—	—	—	—	4	全α	4	全α
26	Pu-240	—	—	—	—	—	—	4	全α	4	全α
27	Am-241	—	—	—	—	—	—	5	全α	5	全α
28	Cm-244	—	—	—	—	—	—	7	全α	7	全α
29	Pu-241	ND	—	7.3E-01	ND	—	6.6E-01	3.7E-03 未満	3.3E-03 未満	200	Pu-238相対比評価

・NDは検出限界値未満を表す。
・○、○E±○とは、○.○×10^{±○}であることを意味する。
(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31、3.1E+00は3.1×10⁰で3.1、3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。
※1 「不確かさ」とは分析データの精度を意味している。
「不確かさ」は「拡張不確かさ；包含係数k=2」を用いて算出している。
※2 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第一第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])
※3 α核種の告示濃度限度に対する比は、評価対象核種のうち最も低い告示濃度限度で評価する。
※4 分析値の求め方は以下のとおり。
測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。
全α：α線を直接計測し、試料に含まれるα核種の全量を求める。
放射平衡評価：放射性核種が壊変して生成する別の放射性核種の間で、その放射エネルギーが一定の比率で存在する物理現象によって求める。
相対比評価：原子炉内に存在していた放射性核種の評価値を元に、放射性核種の崩壊、ALPS処理水への移行を考慮して求める。

【補足】測定・確認用タンク水(管理番号:25-5-16)の排水前分析結果(2/4)

■ トリチウム濃度の分析結果は25万Bq/L

トリチウム濃度(Bq/L)

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (2/4)

要約	25万 Bq/L (100万Bq/L未満を確認)
----	--------------------------

放射能分析 トリチウム

No.	核種	分析結果						分析目的	分析値の求め方 ※ 3
		東京電力			(株) 化研				
		分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)		
1	H-3	2.5E+05	± 1.4E+04	1.8E+01	2.4E+05	± 1.8E+04	2.0E+01	※2	測定

・〇.〇E±〇とは、〇.〇×10^{±〇}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

※1 「不確かさ」とは分析データの精度を意味している。

「不確かさ」は「拡張不確かさ：包含係数k=2」を用いて算出している。

※2 希釈後のトリチウム濃度が1500Bq/L未満となるよう、実施計画に定めた上限の濃度1E+06Bq/L未満(100万Bq/L未満)であることを確認する。

※3 分析値の求め方は以下のとおり。

測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。

<処理水ポータルサイトより抜粋>

【補足】測定・確認用タンク水(管理番号:25-5-16)の排水前分析結果(3/4)

自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)について、全ての核種で有意に存在していないことを確認

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (3/4)

要約	全ての核種で有意な存在なし
----	---------------

放射能分析 自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)

No.	核種	東京電力		(株)化研		確認方法 ※2
		評価 ※1	検出限界値 (Bq/L)	評価 ※1	検出限界値 (Bq/L)	
1	Fe-59	○	4.5E-02	○	4.7E-02	測定
2	Co-58	○	2.4E-02	○	1.8E-02	
3	Zn-65	○	5.1E-02	○	3.8E-02	
4	Rb-86	○	2.8E-01	○	2.7E-01	
5	Sr-89	○	6.8E-02	○	6.2E-02	
6	Y-91	○	2.7E+00	○	2.4E+00	
7	Nb-95	○	3.3E-02	○	2.5E-02	
8	Ru-103	○	2.5E-02	○	2.3E-02	
9	Ag-110m	○	2.4E-02	○	1.8E-02	
10	Cd-115m	○	1.4E+00	○	1.1E+00	
11	Sn-123	○	1.4E+00	○	1.1E+00	
12	Sn-126	○	1.7E-01	○	1.1E-01	
13	Sb-124	○	6.4E-02	○	4.2E-02	
14	Te-123m	○	4.3E-02	○	7.0E-02	
15	Te-127	○	7.6E-01	○	6.2E-01	
16	Te-129m	○	7.3E-01	○	6.3E-01	
17	Te-129	○	3.2E-01	○	5.5E-01	
18	Cs-136	○	2.3E-02	○	2.5E-02	
19	Ba-140	○	8.9E-02	○	1.3E-01	
20	Ce-141	○	1.0E-01	○	1.0E-01	
21	Ce-144	○	3.0E-01	○	2.8E-01	
22	Pm-146	○	5.8E-02	○	5.4E-02	
23	Pm-148m	○	2.2E-02	○	2.3E-02	
24	Pm-148	○	9.8E-02	○	8.9E-02	
25	Eu-152	○	1.1E-01	○	1.1E-01	
26	Gd-153	○	1.5E-01	○	1.2E-01	
27	Tb-160	○	8.0E-02	○	6.5E-02	
28	Am-243	○	2.7E-02	○	2.7E-02	測定 (全αで代替)
29	Cm-242	○	2.7E-02	○	2.4E-02	
30	Cm-243	○	2.7E-02	○	2.4E-02	
31	Rh-103m	○	2.5E-02	○	2.3E-02	
32	Rh-106	○	2.2E-01	○	1.8E-01	
33	Sn-119m	○	6.3E-03	○	4.0E-03	
34	Te-127m	○	7.8E-01	○	6.4E-01	
35	Cs-135	○	2.1E-07	○	1.5E-07	
36	Ba-137m	○	3.1E-02	○	2.1E-02	
37	Pr-144m	○	4.6E-03	○	4.3E-03	
38	Pr-144	○	3.0E-01	○	2.8E-01	
39	Am-242m	○	1.8E-04	○	1.6E-04	Am-241相対比評価

※1 有意に存在していないことを確認した以下の場合には○、有意に存在していることを確認した場合は×と示す。

- ・測定している核種は、検出限界値未満であること
- ・放射平衡等により評価を行った核種のうち、評価元の核種が検出された場合、その評価値が告示濃度限度に比べて極めて低い濃度、すなわち検出限界値の設定値である告示濃度限度の1/100以下を満足しており、検出限界値未満と同義であると判断できること

核種	評価値 (Bq/L)		告示濃度限度 ※3 (Bq/L)
	東京電力	(株)化研	
Rh-103m	—	—	2.0E+05
Rh-106	—	—	3.0E+05
Sn-119m	—	—	2.0E+03
Te-127m	—	—	3.0E+02
Cs-135	1.4E-06	1.3E-06	6.0E+02
Ba-137m	2.0E-01	1.9E-01	8.0E+05
Pr-144m	—	—	4.0E+04
Pr-144	—	—	2.0E+04
Am-242m	—	—	5.0E+00

・「—」は評価元の核種が検出限界値未満であることを示す。

・○、○E±○とは、○.○×10^{±○}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31、3.1E+00は3.1×10⁰で3.1、3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

※2 確認方法は以下のとおり。

測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。

測定 (全αで代替)：α線を直接計測し、試料に含まれるα核種の全量を求める。

放射平衡評価：放射性核種が壊変し生成する別の放射性核種の間で、その放射エネルギーが一定の比率で存在する物理事象によって求める。

相対比評価：原子炉内に存在していた放射性核種の評価値を元に、放射性核種の崩壊、ALPS処理水への移行を考慮して求める。

※3 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第一第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

<処理水ポータルサイトより抜粋>

自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)

判定結果

○：有意に存在しない

×：有意に存在する

■ 一般水質44項目(自主的に水質に異常のないことを確認)について、全ての項目で基準値※を満足していることを確認

※：福島県「大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例(別表第2)」，「福島県生活環境の保全等に関する条例施行規則(別表第5)」に基づく

一般水質項目(44項目)

測定結果

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (4/4)

要約 基準値を満足

一般水質分析 自主的に水質に異常のないことを確認(44項目)

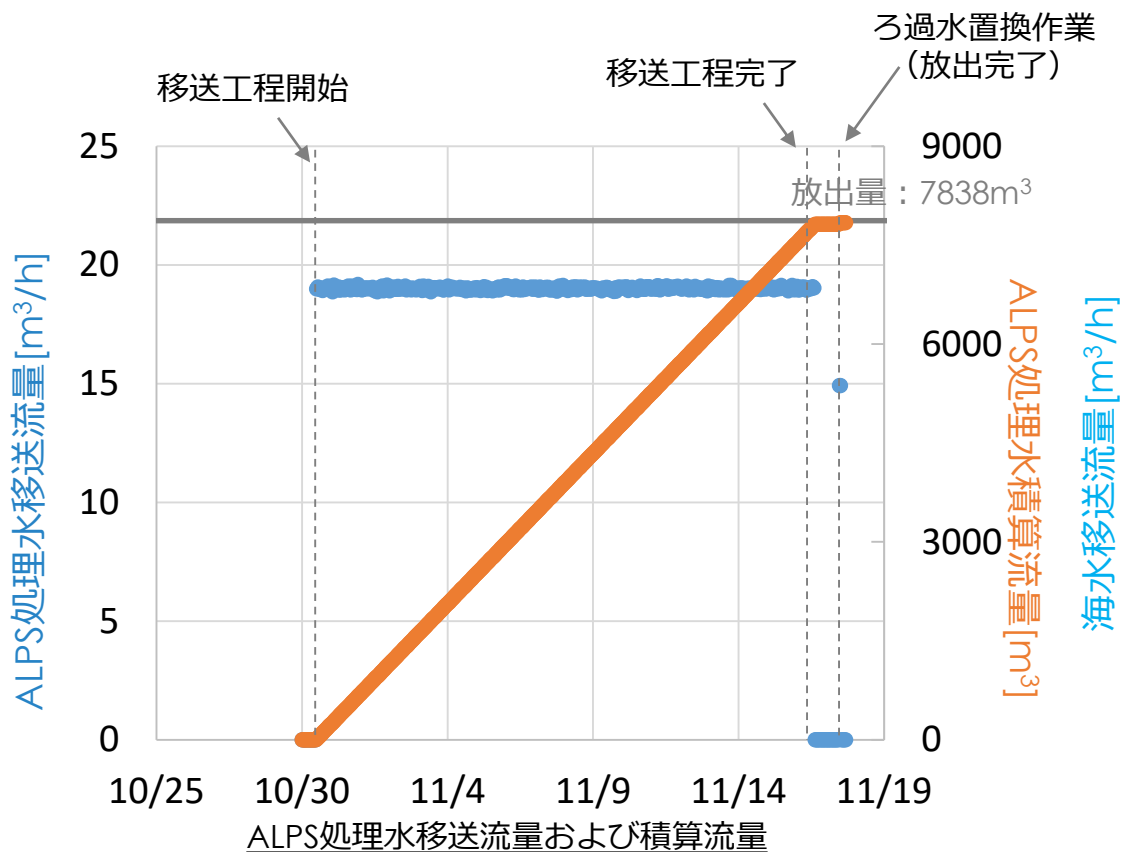
No.	測定項目	単位	分析結果	基準値 ※1
1	水素イオン(pH)	-	8.6	海域5.0～9.0
2	浮遊物質(SS)	mg/L	<1	最大70以下 平均50以下
3	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	0.7	最大40以下 平均30以下
4	ホウ素	mg/L	0.5	海域230以下
5	溶解性鉄	mg/L	<1	10以下
6	銅	mg/L	<0.1	2以下
7	ニッケル	mg/L	<0.1	2以下
8	クロム	mg/L	<0.1	2以下
9	亜鉛	mg/L	<0.1	2以下
10	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	<1	最大40以下 平均30以下
11	大腸菌数	CFU/mL	0	800以下
12	カドミウム	mg/L	<0.01	0.03以下
13	シアン	mg/L	<0.05	0.5以下
14	有機リン	mg/L	<0.1	1以下
15	鉛	mg/L	<0.01	0.1以下
16	六価クロム	mg/L	<0.05	0.2以下
17	ヒ素	mg/L	<0.01	0.1以下
18	水銀	mg/L	<0.0005	0.005以下
19	アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと※2
20	ポリ塩化ビフェニル	mg/L	<0.0005	0.003以下
21	トリクロロエチレン	mg/L	<0.03	0.1以下
22	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.01	0.1以下
23	ジクロロメタン	mg/L	<0.02	0.2以下
24	四塩化炭素	mg/L	<0.002	0.02以下

25	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.004	0.04以下
26	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.1	1以下
27	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.04	0.4以下
28	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.3	3以下
29	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.006	0.06以下
30	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.002	0.02以下
31	チウラム	mg/L	<0.006	0.06以下
32	シマジン	mg/L	<0.003	0.03以下
33	チオベンカルブ	mg/L	<0.02	0.2以下
34	ベンゼン	mg/L	<0.01	0.1以下
35	セレン	mg/L	<0.01	0.1以下
36	フェニトロチオン	mg/L	<0.003	0.03以下
37	フェノール類	mg/L	<0.1	1以下
38	フッ素	mg/L	<0.5	海域10以下
39	溶解性マンガン	mg/L	<1	10以下
40	アンモニア，アンモニウム化合物	mg/L	<1	100以下
41	亜硝酸化合物および硝酸化合物	mg/L	5	
42	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.05	0.5以下
43	n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	mg/L	<0.5	1以下
44	n-ヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	mg/L	<1	10以下

・不等号(<)は定量下限値未満を表す。
※1 福島県「大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例(別表第2)」，「福島県生活環境の保全等に関する条例施行規則(別表第5)」に基づく。
※2 「検出されないこと」とは「排水基準を定める省令(別表第一)」の備考欄に基づき，環境大臣が定める方法により排水水の汚染状態を検定した場合において，その結果が当該検定方法の定量限界(アルキル水銀：0.0005mg/L)を下回ることを。

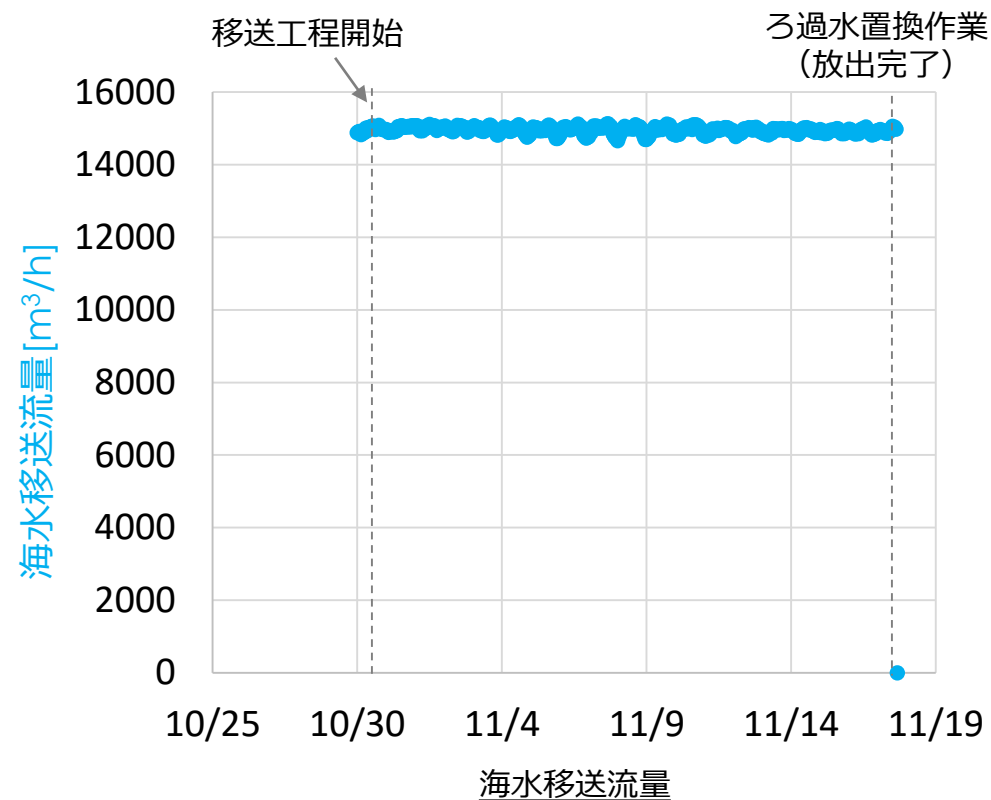
1 - 2. 管理番号 (25-5-16) 放出期間中の運転パラメータの実績 (1/2)

- ALPS処理水移送系統および海水系統ともに異常無く、運転することができた。



● ALPS処理水移送流量※1

● ALPS処理水積算流量



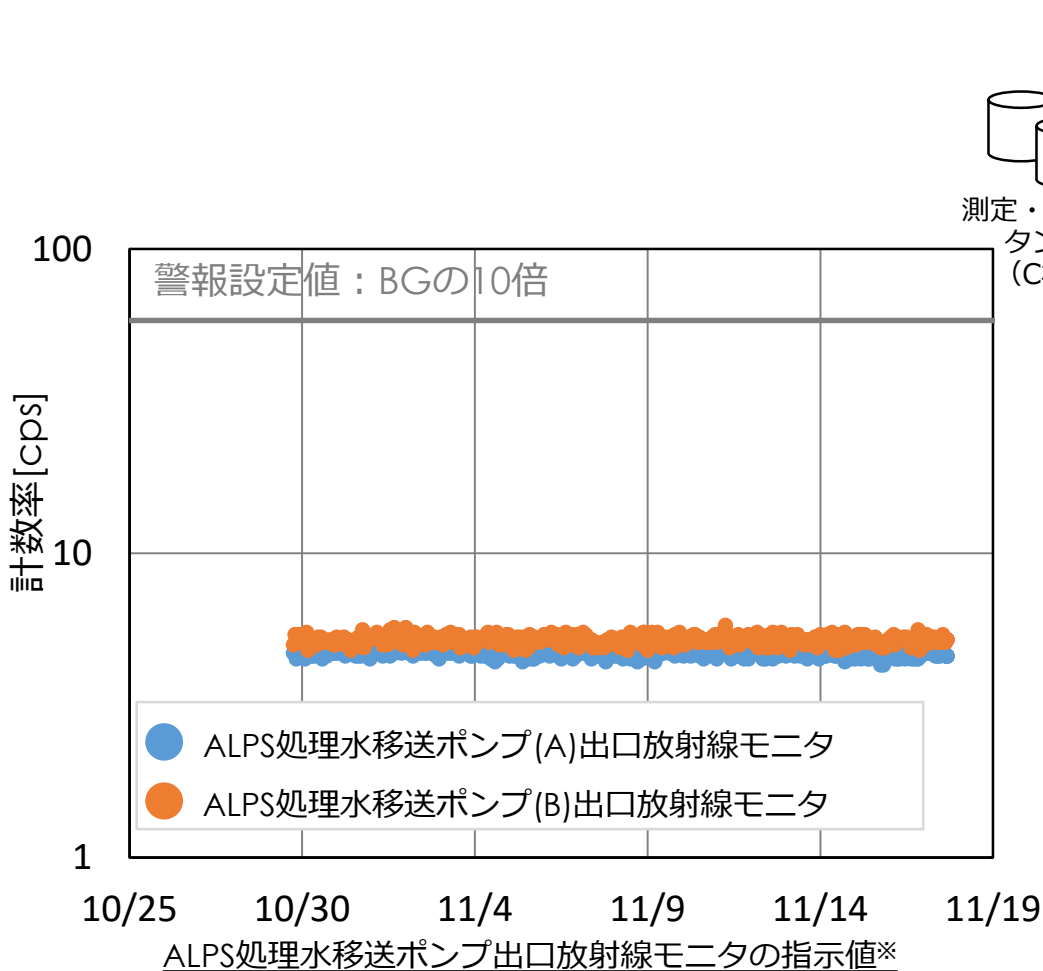
● 海水移送流量※2

※1: 流量計は2重化しているため、2つの値のうち、高い方をプロット

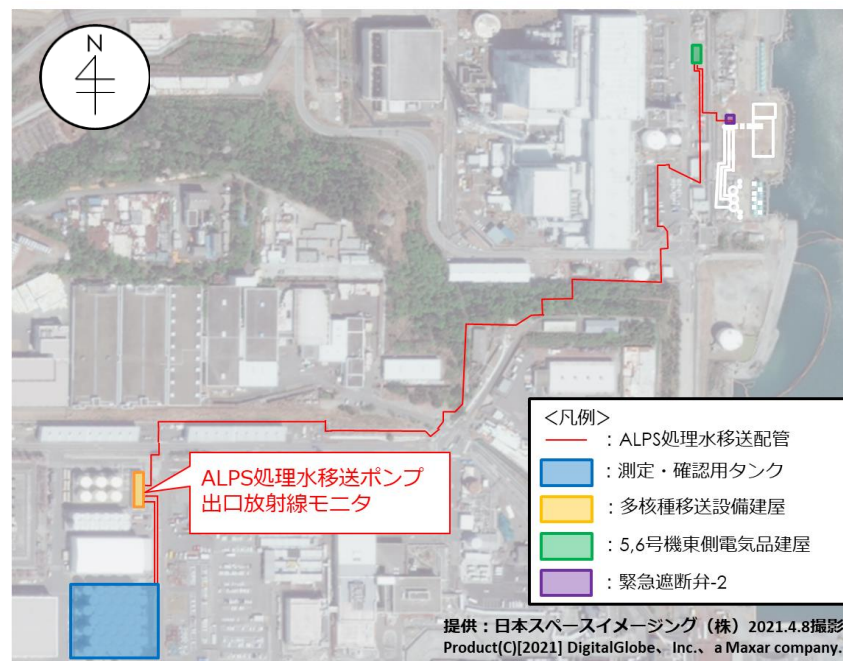
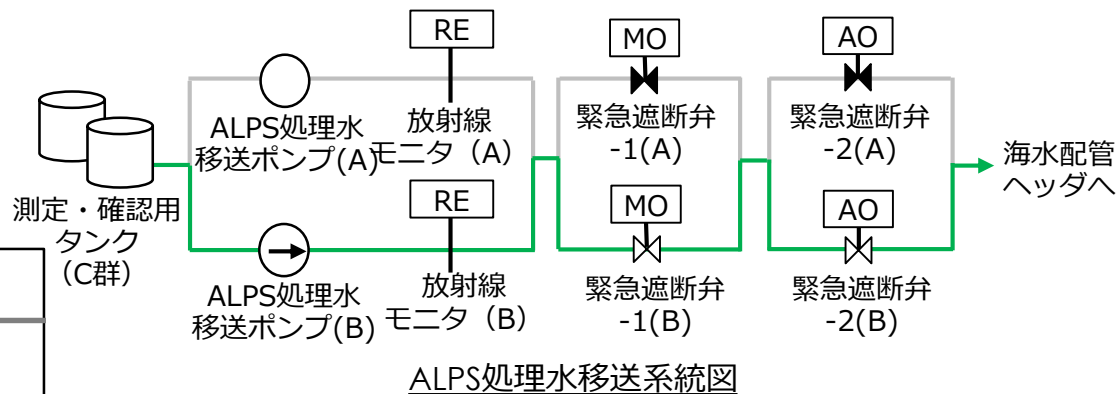
※2: 2系統の合計値をプロット

1 - 2. 管理番号 (25-5-16) 放出期間中の運転パラメータの実績 (2/2)

- ALPS処理水移送ポンプ出口放射線モニタの指示値から異常は確認されなかった。



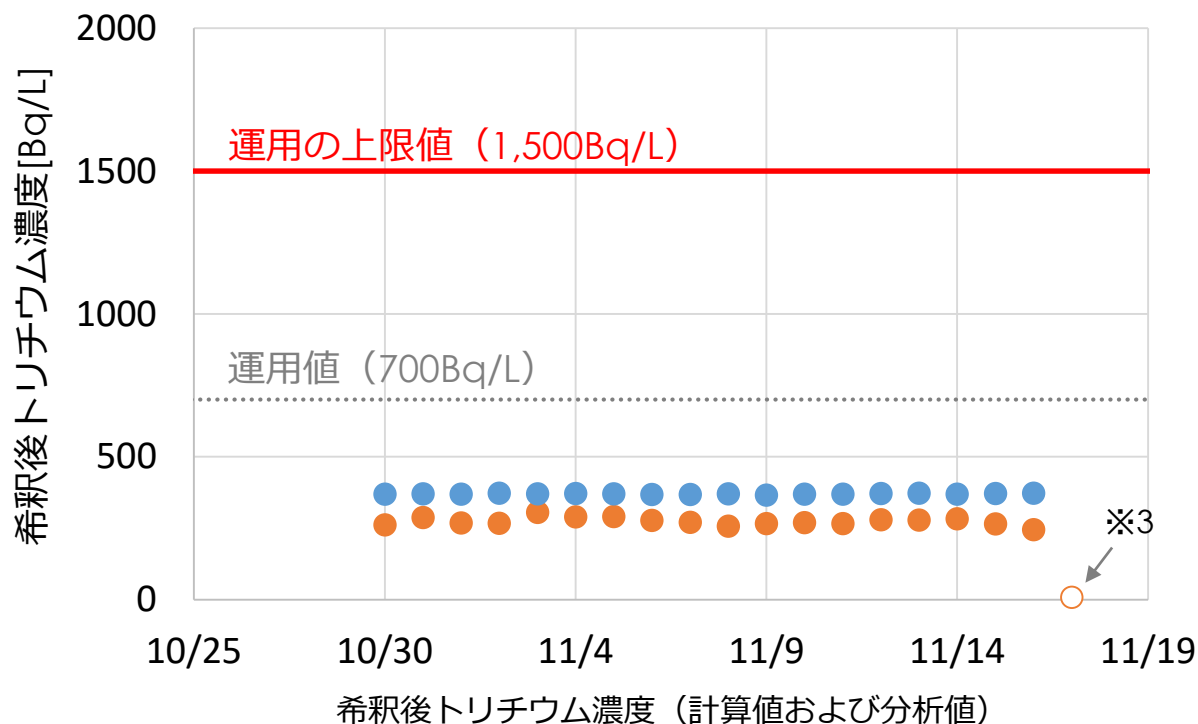
※: 右上図の通り、B系にALPS処理水を通水。(A系はろ過水が充填)



ALPS処理水希釈放出設備平面図

1－3. 管理番号（25-5-16）放出期間中の希釈後トリチウム濃度

- 放出期間中は毎日、海水配管ヘッダ下流の水を採取し、トリチウム濃度を分析。
⇒運用の上限値である1,500Bq/L未満であることを確認。



● 計算値※1

● 分析値 (検出値)

○ 分析値 (検出限界値未満)

※1：以下の式を用いて算出
(各パラメータには、不確かさを考慮している)

希釈後トリチウム濃度 (計算値)

$$= \frac{\text{ALPS処理水トリチウム濃度}^{\ast 2} \times \text{ALPS処理水流量}}{\text{海水流量} + \text{ALPS処理水流量}}$$

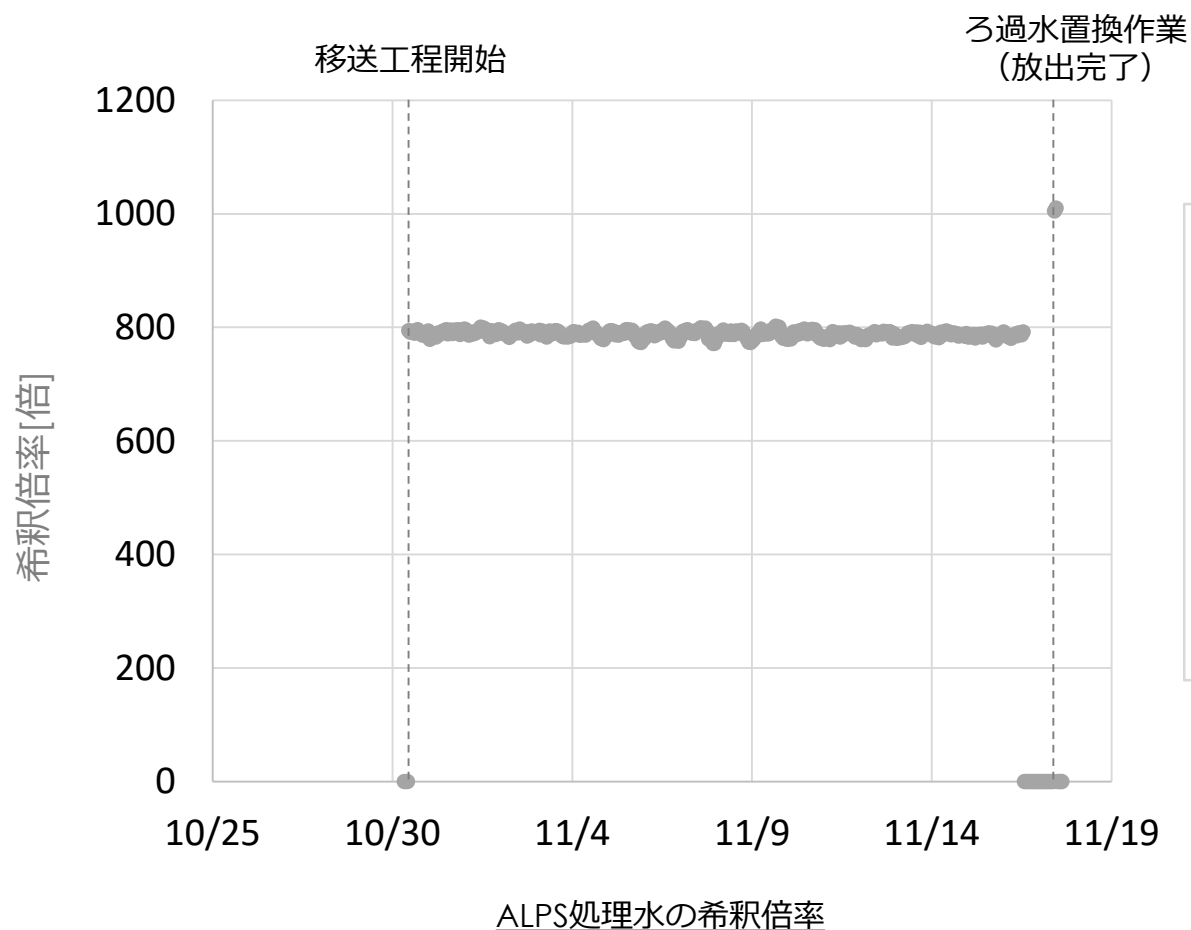
※2：測定・確認用タンクでの分析値

※3：ろ過水置換作業を実施しているため、計算値は無い。

	10/30	10/31～11/16	11/17
計算値：データ抽出時間	13:00	7:00	—
分析値：試料採取時間	13:26	6:00～9:00	12:02

1-4. 管理番号(25-5-16) 放出期間中のALPS処理水の希釈倍率

- ALPS処理水の希釈倍率は常時100倍以上で運転。



● 希釈倍率※1

※1：以下の式を用いて算出

$$\text{希釈倍率} = \frac{\text{海水流量※2} + \text{ALPS処理水流量※3}}{\text{ALPS処理水流量※3}}$$

※2：2系統の合計値

※3：流量計は2重化しているため、
2つの値のうち、高い方の値か
ら算出

2-1. 測定・確認用タンク水（管理番号:25-6-17）の分析結果

- 2025年10月17日に測定・確認用タンク(A群)から採取したサンプルについて、排水前分析結果が得られ、**放出基準を満足していることを確認**（表1，2025年12月2日公表）
 - 項目①：測定・評価対象核種(29核種)の**告示濃度比総和は0.19**となり、1未満であることを確認
 - 項目②：トリチウム濃度の分析結果は**31万Bq/L**となり、100万Bq/L未満であることを確認
 - 項目①／②：当社委託外部機関（株式会社化研）および国が行う第三者（日本原子力研究開発機構）※1の分析においても、同様の結果が得られたことを確認
 - 項目③／④：運用目標を満足していることを確認

※1 ALPS処理水の第三者分析
(<https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/alps/>)

表1. 測定・確認用タンク水(管理番号:25-6-17)の排水前分析結果

測定項目		要求根拠	運用目標	分析結果
①	測定・評価対象核種(29核種)	実施計画	トリチウム以外の放射性核種の告示濃度比の和が1未満	0.19 (<1)
②	トリチウム		トリチウム濃度が100万Bq/L未満	31万Bq/L (<100万Bq/L)
③	自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)	自主管理	対象とする核種が有意に存在していないことを確認	全ての核種で有意な存在なし
④	一般水質 44項目		水質基準の事前確認※2	全ての項目で基準値を満足

※2 同項目について、年1回の放水立坑(上流水槽)サンプリングにて、法令要求を満足することを確認

【補足】測定・確認用タンク水(管理番号:25-6-17)の排水前分析結果(1/4)

■ 測定・評価対象核種(29核種)の告示濃度比総和は0.19となり、1未満であることを確認

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (1/4)

試料名	ALPS処理水 測定・確認用タンク水	A群	要約	測定・評価対象核種(29核種)	告示濃度比総和	0.19 (1未満を確認)
採取日時	2025年10月17日	9時26分				
貯留量 (m ³)	8929					

測定・評価対象核種
(29核種)

放射能濃度
分析結果(Bq/L)

告示濃度に対する比

放射能分析 測定・評価対象核種(29核種)

No.	核種	分析結果						告示濃度限度に対する比		告示濃度限度 ※2 (Bq/L)	分析値の求め方 ※4
		東京電力 分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	(株) 化研 分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	東京電力	(株) 化研		
1	C-14	2.9E+01	± 2.8E+00	2.1E+00	2.7E+01	± 1.6E+00	1.0E+00	1.4E-02	1.4E-02	2000	測定
2	Mn-54	ND	—	2.6E-02	ND	—	1.7E-02	2.6E-05 未満	1.7E-05 未満	1000	測定
3	Fe-55	ND	—	1.4E+01	ND	—	1.1E+01	7.2E-03 未満	5.4E-03 未満	2000	測定
4	Co-60	3.1E-01	± 5.9E-02	2.4E-02	3.0E-01	± 4.2E-02	2.2E-02	1.6E-03	1.5E-03	200	測定
5	Ni-63	ND	—	8.9E+00	ND	—	5.2E+00	1.5E-03 未満	8.7E-04 未満	6000	測定
6	Se-79	ND	—	1.0E+00	ND	—	1.5E+00	5.1E-03 未満	7.7E-03 未満	200	測定
7	Sr-90	3.4E+00	± 1.2E-01	5.1E-02	3.5E+00	± 4.5E-01	4.3E-02	1.1E-01	1.2E-01	30	測定
8	Y-90	3.4E+00	—	5.1E-02	3.5E+00	—	4.3E-02	1.1E-02	1.2E-02	300	Sr-90/Y-90放射平衡評価
9	Tc-99	ND	—	1.5E-01	ND	—	1.6E-01	1.5E-04 未満	1.6E-04 未満	1000	測定
10	Ru-106	ND	—	2.1E-01	ND	—	1.8E-01	2.1E-03 未満	1.8E-03 未満	100	測定
11	Cd-113m	ND	—	8.7E-02	ND	—	5.6E-02	2.2E-03 未満	1.4E-03 未満	40	測定
12	Sb-125	1.5E-01	± 6.5E-02	8.6E-02	1.7E-01	± 5.6E-02	7.5E-02	1.9E-04	2.2E-04	800	測定
13	Te-125m	5.7E-02	—	3.2E-02	6.5E-02	—	2.8E-02	6.4E-05	7.2E-05	900	Sb-125/Te-125m放射平衡評価
14	I-129	1.7E-01	± 1.4E-02	1.4E-02	2.2E-01	± 4.5E-02	3.3E-02	1.9E-02	2.4E-02	9	測定
15	Cs-134	ND	—	2.8E-02	ND	—	2.2E-02	4.6E-04 未満	3.7E-04 未満	60	測定
16	Cs-137	1.9E-01	± 4.2E-02	3.3E-02	1.9E-01	± 2.8E-02	2.2E-02	2.1E-03	2.0E-03	90	測定
17	Pm-147	ND	—	2.6E-02	ND	—	2.4E-01	9.4E-05 未満	8.0E-05 未満	3000	Eu-154相対比評価
18	Sm-151	ND	—	1.1E-02	ND	—	9.2E-03	1.4E-06 未満	1.1E-06 未満	8000	Eu-154相対比評価
19	Eu-154	ND	—	6.3E-02	ND	—	5.4E-02	1.6E-04 未満	1.3E-04 未満	400	測定
20	Eu-155	ND	—	1.7E-01	ND	—	1.3E-01	5.5E-05 未満	4.5E-05 未満	3000	測定
21	U-234	—	—	—	—	—	—	—	—	20	全α
22	U-238	—	—	—	—	—	—	—	—	20	全α
23	Np-237	—	—	—	—	—	—	—	—	9	全α
24	Pu-238	ND	—	2.7E-02	ND	—	2.4E-02	6.7E-03 未満 ※3	6.0E-03 未満 ※3	4	全α
25	Pu-239	—	—	—	—	—	—	—	—	4	全α
26	Pu-240	—	—	—	—	—	—	—	—	4	全α
27	Am-241	—	—	—	—	—	—	—	—	5	全α
28	Cm-244	—	—	—	—	—	—	—	—	7	全α
29	Pu-241	ND	—	7.3E-01	ND	—	6.6E-01	3.7E-03 未満	3.3E-03 未満	200	Pu-238相対比評価
告示濃度比総和 (告示濃度限度に対する比の和)								1.9E-01 未満	2.0E-01 未満		

・NDは検出限界値未満を表す。

・○、○±○とは、○、○×10^{±○}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31、3.1E+00は3.1×10⁰で3.1、3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

※1 「不確かさ」とは分析データの精度を意味している。

「不確かさ」は「拡張不確かさ：包含係数k=2」を用いて算出している。

※2 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第一第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

※3 α核種の告示濃度限度に対する比は、評価対象核種のうち最低告示濃度限度で評価する。

※4 分析値の求め方は以下のとおり。

測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。

全α：α線を直接計測し、試料に含まれるα核種の全量を求める。

放射平衡評価：放射性核種が壊変して生成する別の放射性核種の間で、その放射エネルギーが一定の比率で存在する物理現象によって求める。

相対比評価：原子炉内に存在していた放射性核種の評価値を元に、放射性核種の崩壊、ALPS処理水への移行を考慮して求める。

＜処理水ポータルサイトより抜粋＞

■ トリチウム濃度の分析結果は31万Bq/L

トリチウム濃度(Bq/L)

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (2/4)

要約	31万 Bq/L	(100万Bq/L未滿を確認)
----	----------	-----------------

放射能分析 トリチウム

No.	核種	分析結果						分析目的	分析値の求め方 ※ 3
		東京電力			(株) 化研				
		分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)	分析値 (Bq/L)	不確かさ ※1 (Bq/L)	検出限界値 (Bq/L)		
1	H-3	3.1E+05	± 2.3E+04	1.7E+01	2.9E+05	± 2.2E+04	2.0E+01	※2	測定

・〇.〇E±〇とは、〇.〇×10^{±〇}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

※1 「不確かさ」とは分析データの精度を意味している。

「不確かさ」は「拡張不確かさ：包含係数k=2」を用いて算出している。

※2 希釈後のトリチウム濃度が1500Bq/L未滿となるよう、実施計画に定めた上限の濃度1E+06Bq/L未滿(100万Bq/L未滿)であることを確認する。

※3 分析値の求め方は以下のとおり。

測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。

<処理水ポータルサイトより抜粋>

【補足】測定・確認用タンク水(管理番号:25-6-17)の排水前分析結果(3/4)

自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)について、全ての核種で有意に存在していないことを確認

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (3/4)

要約 全ての核種で有意な存在なし

放射能分析 自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)

No.	核種	東京電力		(株)化研		確認方法 ※2
		評価 ※1	検出限界値 (Bq/L)	評価 ※1	検出限界値 (Bq/L)	
1	Fe-59	○	4.2E-02	○	4.5E-02	測定
2	Co-58	○	2.3E-02	○	1.8E-02	
3	Zn-65	○	4.7E-02	○	3.7E-02	
4	Rb-86	○	2.8E-01	○	2.4E-01	
5	Sr-89	○	1.2E-01	○	8.1E-02	
6	Y-91	○	2.7E+00	○	2.2E+00	
7	Nb-95	○	2.9E-02	○	2.3E-02	
8	Ru-103	○	2.9E-02	○	2.5E-02	
9	Ag-110m	○	2.5E-02	○	1.8E-02	
10	Cd-115m	○	1.2E+00	○	1.0E+00	
11	Sn-123	○	1.3E+00	○	9.2E-01	
12	Sn-126	○	1.4E-01	○	1.1E-01	
13	Sb-124	○	5.6E-02	○	4.2E-02	
14	Te-123m	○	5.1E-02	○	4.1E-02	
15	Te-127	○	7.1E-01	○	6.0E-01	
16	Te-129m	○	7.6E-01	○	6.4E-01	
17	Te-129	○	3.3E-01	○	3.2E-01	
18	Cs-136	○	2.3E-02	○	2.3E-02	
19	Ba-140	○	9.5E-02	○	1.1E-01	
20	Ce-141	○	9.6E-02	○	8.0E-02	
21	Ce-144	○	3.1E-01	○	2.7E-01	
22	Pm-146	○	5.6E-02	○	5.3E-02	
23	Pm-148m	○	2.5E-02	○	2.4E-02	
24	Pm-148	○	1.0E-01	○	8.5E-02	
25	Eu-152	○	1.1E-01	○	9.0E-02	
26	Gd-153	○	1.3E-01	○	2.0E-01	
27	Tb-160	○	8.2E-02	○	6.2E-02	
28	Am-243	○	2.7E-02	○	2.7E-02	測定 (全αで代替)
29	Cm-242	○	2.7E-02	○	2.4E-02	
30	Cm-243	○	2.7E-02	○	2.4E-02	
31	Rh-103m	○	2.8E-02	○	2.5E-02	
32	Rh-106	○	2.1E-01	○	1.8E-01	
33	Sn-119m	○	5.0E-03	○	4.1E-03	
34	Te-127m	○	7.3E-01	○	6.2E-01	
35	Cs-135	○	2.2E-07	○	1.4E-07	
36	Ba-137m	○	3.1E-02	○	2.1E-02	
37	Pr-144m	○	4.7E-03	○	4.1E-03	
38	Pr-144	○	3.1E-01	○	2.7E-01	
39	Am-242m	○	1.8E-04	○	1.6E-04	Am-241相対比評価

※1 有意に存在していないことを確認した以下の場合には○、有意に存在していることを確認した場合は×と示す。

・測定している核種は、検出限界値未満であること

・放射平衡等により評価を行った核種のうち、評価元の核種が検出された場合、その評価値が告示濃度限度に比べて極めて低い濃度、すなわち検出限界値の設定値である告示濃度限度の1/100以下を満足しており、検出限界値未満と同義であると判断できること

核種	評価値 (Bq/L)		告示濃度限度 ※3 (Bq/L)
	東京電力	(株)化研	
Rh-103m	—	—	2.0E+05
Rh-106	—	—	3.0E+05
Sn-119m	—	—	2.0E+03
Te-127m	—	—	3.0E+02
Cs-135	1.2E-06	1.2E-06	6.0E+02
Ba-137m	1.8E-01	1.7E-01	8.0E+05
Pr-144m	—	—	4.0E+04
Pr-144	—	—	2.0E+04
Am-242m	—	—	5.0E+00

・「—」は評価元の核種が検出限界値未満であることを示す。

・○、○△と△とは、 $\bigcirc \times 10^{10}$ であることを意味する。

(例) $3.1E+01$ は 3.1×10^1 で31、 $3.1E+00$ は 3.1×10^0 で3.1、 $3.1E-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

※2 確認方法は以下のとおり。

測定：放射能強度、元素量を直接計測・分析することによって放射性核種毎の濃度を求める。

測定 (全αで代替)：α線を直接計測し、試料に含まれるα核種の全量を求める。

放射平衡評価：放射性核種が壊変し生成する別の放射性核種の間で、その放射能量が一定の比率で存在する物理事象によって求める。

相対比評価：原子炉内に存在していた放射性核種の評価値を元に、放射性核種の崩壊、ALPS処理水への移行を考慮して求める。

※3 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度 (別表第一第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

<処理水ポータルサイトより抜粋>

自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)

判定結果
○：有意に存在しない
×：有意に存在する

■ 一般水質44項目(自主的に水質に異常のないことを確認)について、全ての項目で基準値※を満足していることを確認

※：福島県「大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例(別表第2)」，「福島県生活環境の保全等に関する条例施行規則(別表第5)」に基づく

一般水質項目(44項目)

測定結果

ALPS処理水 測定・確認用タンク水の排水前分析結果 (4 / 4)

要約

基準値を満足

一般水質分析 自主的に水質に異常のないことを確認(44項目)

No.	測定項目	単位	分析結果	基準値 ※1
1	水素イオン(pH)	-	8.6	海域5.0~9.0
2	浮遊物質(SS)	mg/L	<1	最大70以下 平均50以下
3	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	<0.5	最大40以下 平均30以下
4	ホウ素	mg/L	0.5	海域230以下
5	溶解性鉄	mg/L	<1	10以下
6	銅	mg/L	<0.1	2以下
7	ニッケル	mg/L	<0.1	2以下
8	クロム	mg/L	<0.1	2以下
9	亜鉛	mg/L	<0.1	2以下
10	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	<1	最大40以下 平均30以下
11	大腸菌数	CFU/mL	0	800以下
12	カドミウム	mg/L	<0.01	0.03以下
13	シアン	mg/L	<0.05	0.5以下
14	有機リン	mg/L	<0.1	1以下
15	鉛	mg/L	<0.01	0.1以下
16	六価クロム	mg/L	<0.05	0.2以下
17	ヒ素	mg/L	<0.01	0.1以下
18	水銀	mg/L	<0.0005	0.005以下
19	アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと ※ 2
20	ポリ塩化ビフェニル	mg/L	<0.0005	0.003以下
21	トリクロロエチレン	mg/L	<0.03	0.1以下
22	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.01	0.1以下
23	ジクロロメタン	mg/L	<0.02	0.2以下
24	四塩化炭素	mg/L	<0.002	0.02以下

25	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.004	0.04以下
26	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.1	1以下
27	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.04	0.4以下
28	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.3	3以下
29	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.006	0.06以下
30	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.002	0.02以下
31	チウラム	mg/L	<0.006	0.06以下
32	シマジン	mg/L	<0.003	0.03以下
33	チオベンカルブ	mg/L	<0.02	0.2以下
34	ベンゼン	mg/L	<0.01	0.1以下
35	セレン	mg/L	<0.01	0.1以下
36	フェニトロチオン	mg/L	<0.003	0.03以下
37	フェノール類	mg/L	<0.1	1以下
38	フッ素	mg/L	<0.5	海域10以下
39	溶解性マンガ	mg/L	<1	10以下
40	アンモニア, アンモニウム化合物	mg/L	<1	100以下
41	亜硝酸化合物および硝酸化合物	mg/L	10	
42	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.05	0.5以下
43	n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	mg/L	<0.5	1以下
44	n-ヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	mg/L	<1	10以下

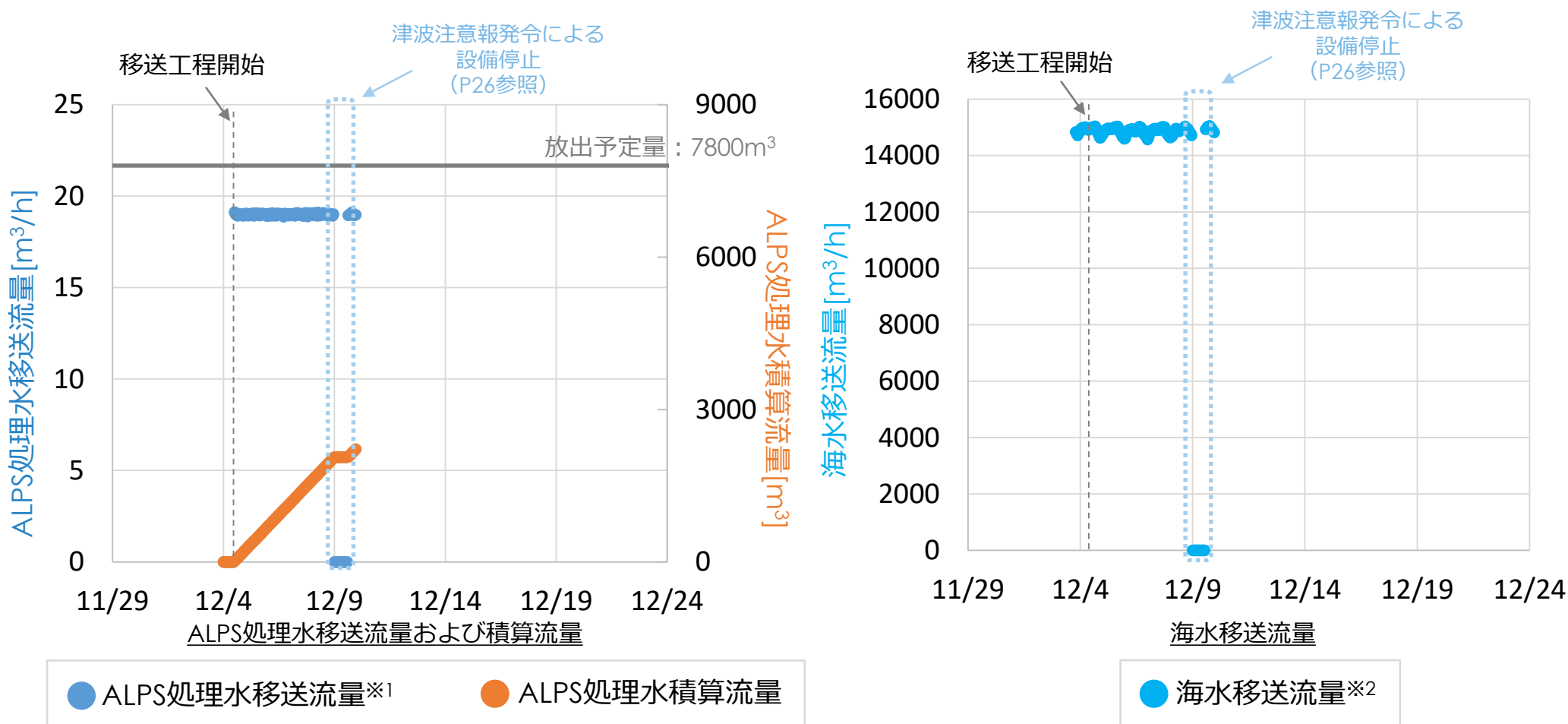
・ 不等号 (<) は定量下限値未達を表す。

※1 福島県「大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例(別表第2)」, 「福島県生活環境の保全等に関する条例施行規則(別表第5)」に基づく。

※2 「検出されないこと」とは「排水基準を定める省令(別表第一)」の備考欄に基づき、環境大臣が定める方法により排出水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界(アルキル水銀: 0.0005mg/L)を下回ること。

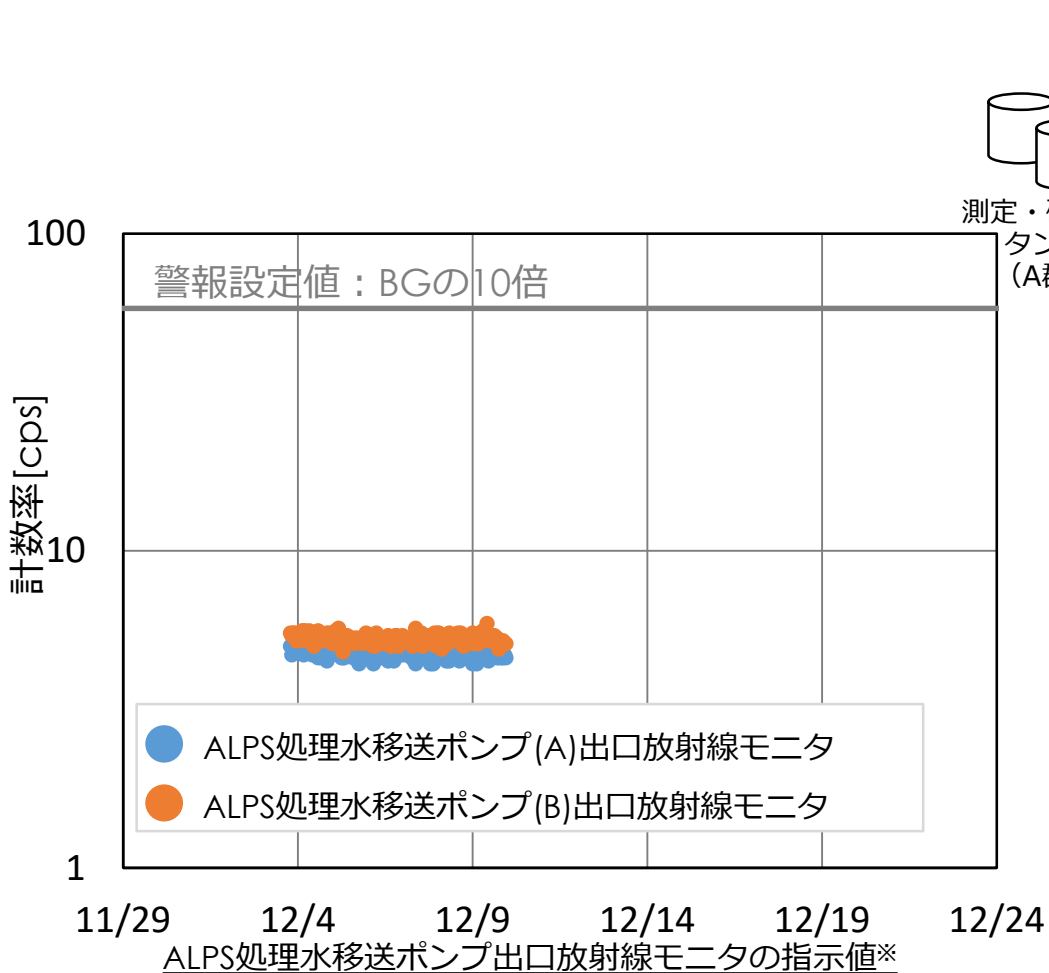
2-2. 管理番号 (25-6-17) 放出期間中の運転パラメータの実績 (1/2)

- ALPS処理水移送系統および海水系統ともに異常無く、運転。

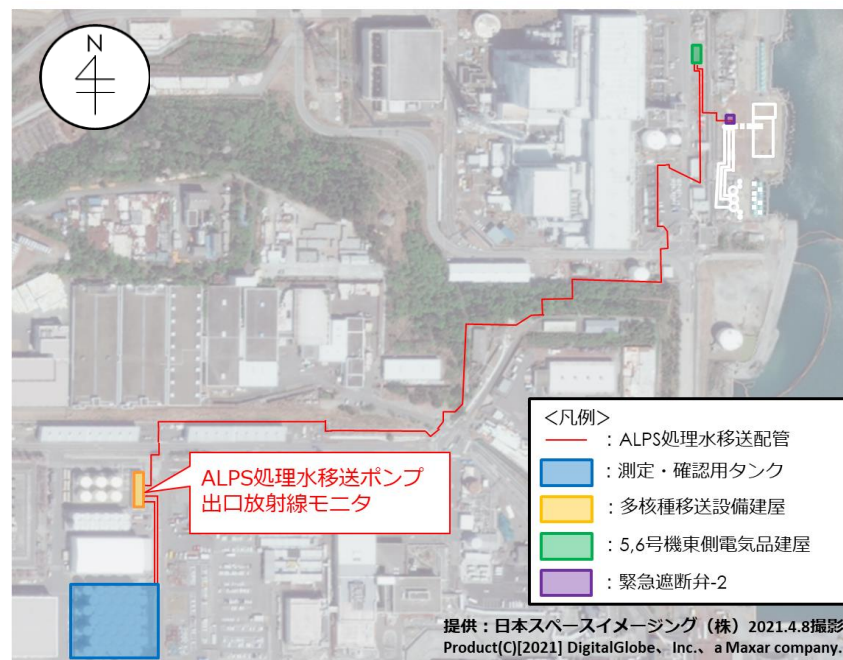
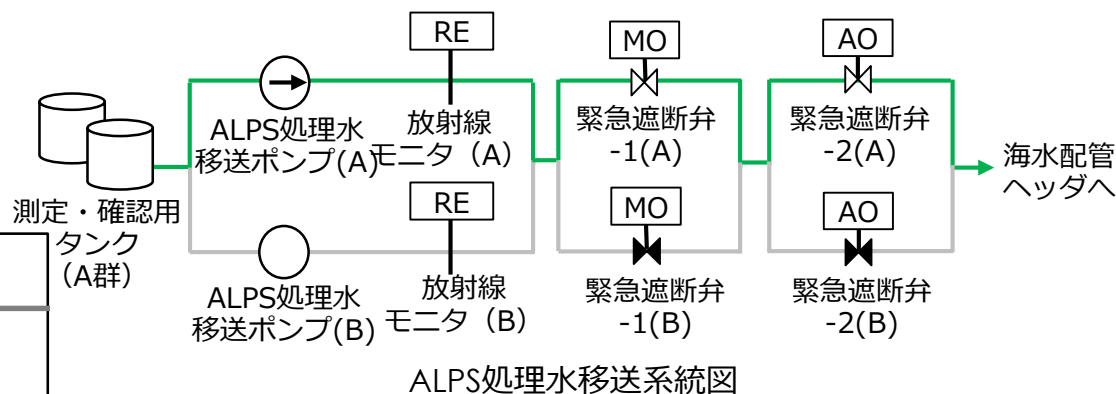


2-2. 管理番号(25-6-17) 放出期間中の運転パラメータの実績(2/2)

- ALPS処理水移送ポンプ出口放射線モニタの指示値から異常は確認されていない。



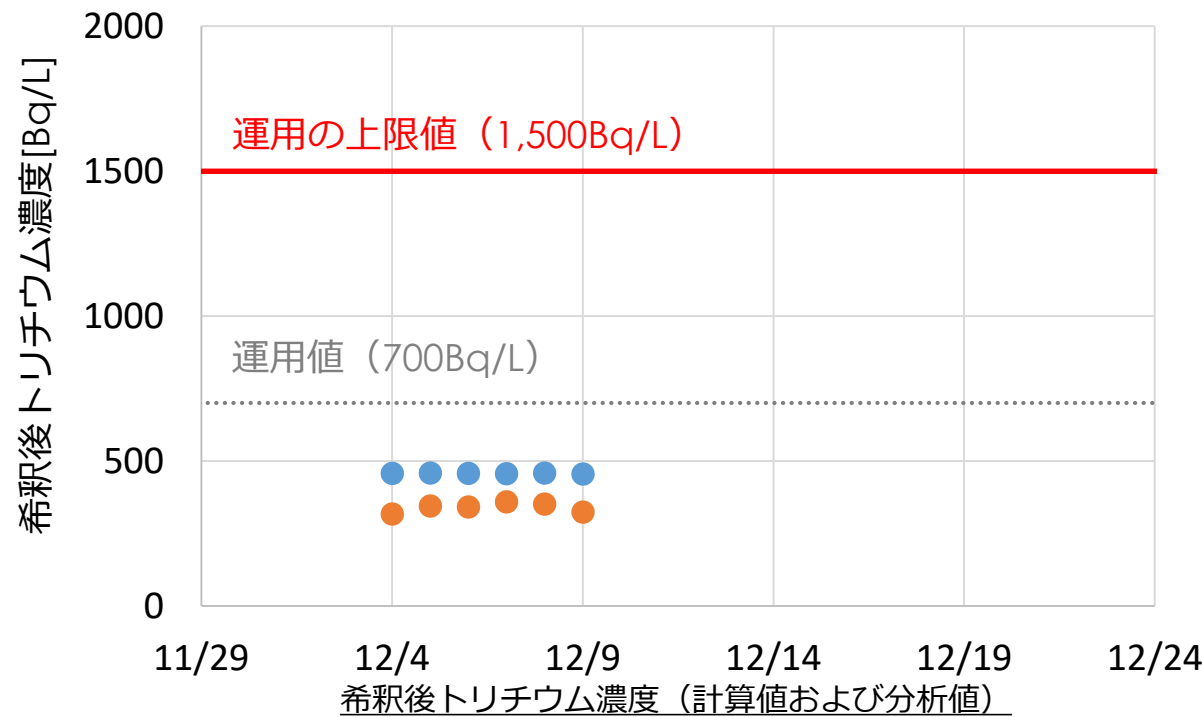
※：右上図の通り、A系にALPS処理水を通水。(B系はろ過水が充填)



ALPS処理水希釈放出設備平面図

2-3. 管理番号(25-6-17) 放出期間中の希釈後トリチウム濃度

- 放出期間中は毎日、海水配管ヘッダ下流の水を採取し、トリチウム濃度を分析。
⇒運用の上限値である1,500Bq/L未満であることを確認。



● 計算値※1

● 分析値 (検出値)

※1: 以下の式を用いて算出
(各パラメータには、不確かさを考慮している)

希釈後トリチウム濃度 (計算値)

$$= \frac{\text{ALPS処理水トリチウム濃度}^{\ast 2} \times \text{ALPS処理水流量}}{\text{海水流量} + \text{ALPS処理水流量}}$$

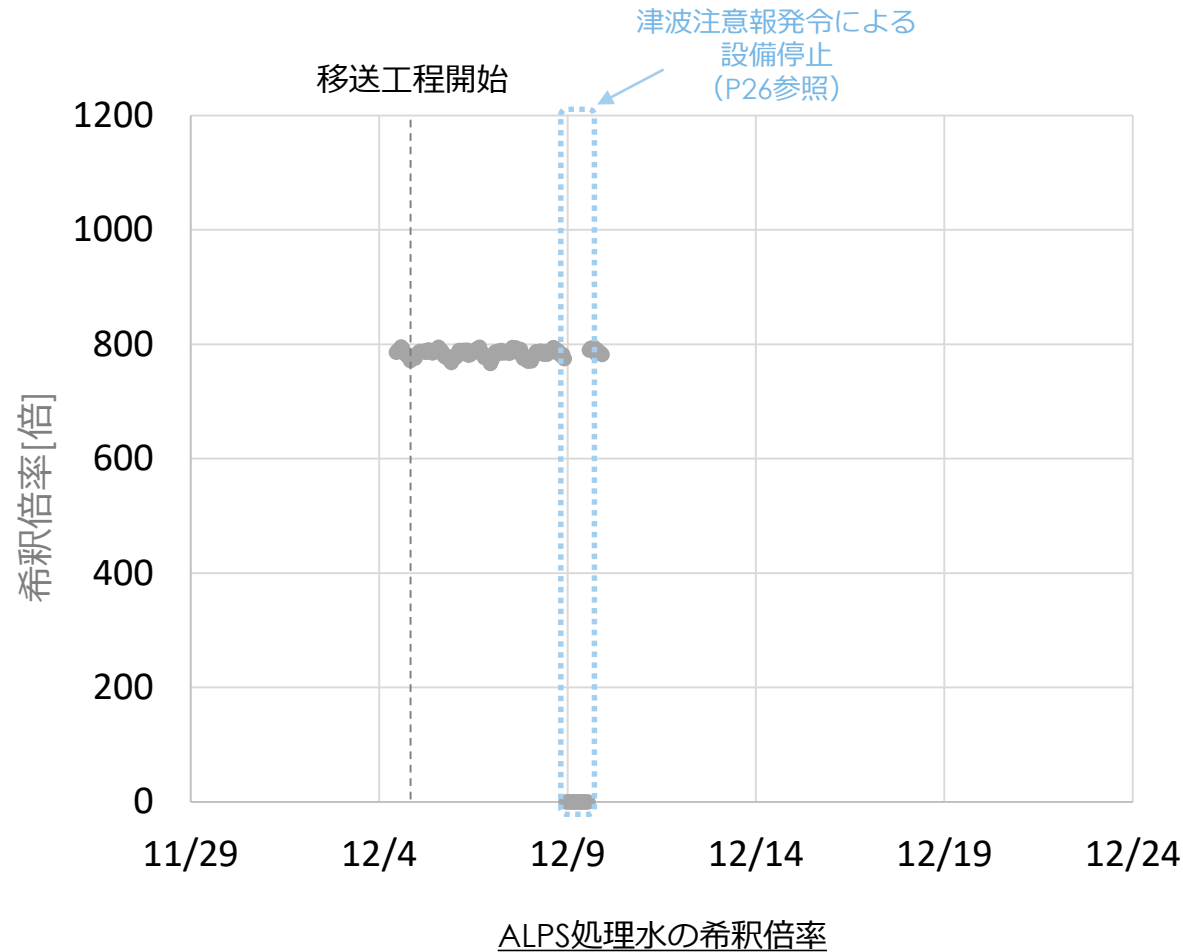
※2: 測定・確認用タンクでの分析値

	12/4	12/5～12/8	12/9※3
計算値: データ抽出時間	13:00	7:00	16:00
分析値: 試料採取時間	13:26	6:00～9:00	15:44

※3: 津波注意報の発令に伴い、放出の一時停止/再開を実施 (P26参照)。

2-4. 管理番号(25-6-17) 放出期間中のALPS処理水の希釈倍率

- ALPS処理水の希釈倍率は常時100倍以上で運転。



● 希釈倍率※1

※1：以下の式を用いて算出

$$\text{希釈倍率} = \frac{\text{海水流量※2} + \text{ALPS処理水流量※3}}{\text{ALPS処理水流量※3}}$$

※2：2系統の合計値

※3：流量計は2重化しているため、
2つの値のうち、高い方の値か
ら算出

2－5．津波注意報発令・北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時の 対応について

■ 2025年12月8日

- 23時16分：福島県に津波注意報が発令
- 23時42分：あらかじめ定めた手順に従い、ALPS処理水希釈放出設備を手動停止※（順次、海水移送ポンプについても停止）

※次頁参照

■ 2025年12月9日

- 2時00分：北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表
- 6時20分：福島県に発令されていた津波注意報が解除
- 14時34分：北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表を受け、現場の避難経路や連絡手段を改めて確認。また、現場パトロールを行い、設備に異常がないことを確認したことから、放出を再開。

【補足】 海洋放出を停止する自然現象等

- 下記の自然現象等が発生した場合、運転員の操作により海洋への放出を停止させる。

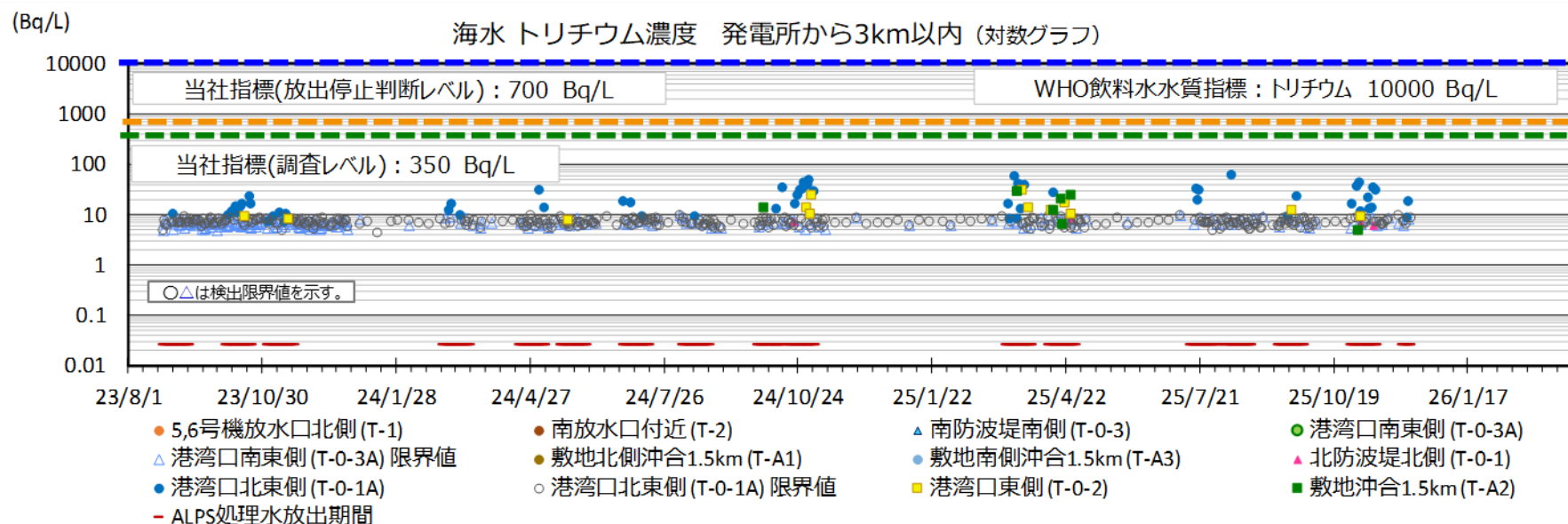
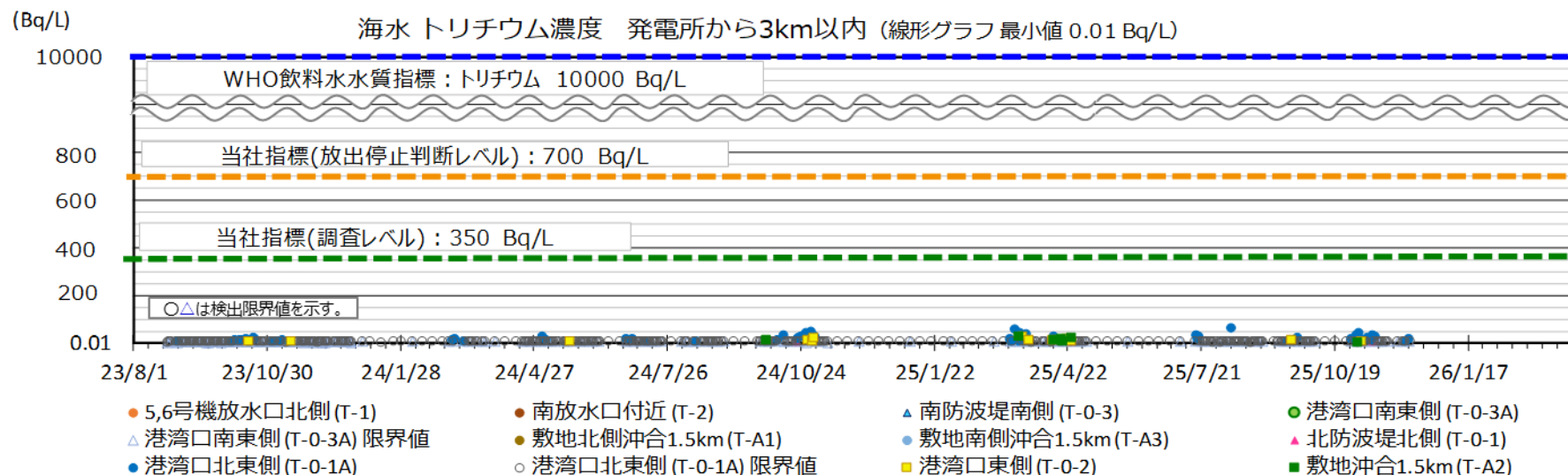
震度5弱以上の地震	・ 地震により設備が機能喪失した場合の影響を最小化するため
津波注意報	・ 津波によって海拔2.5mの設備が損傷するおそれがあるため
竜巻注意情報	・ 竜巻によって設備が損傷するおそれがあるため
高潮警報	・ 設計通りに海面との水位差による海洋放出ができないおそれがあるため
その他	・ 上記以外に異常の兆候があり、当直長が停止する必要があると認める場合

【補足】 海域モニタリングの実績（1/2）

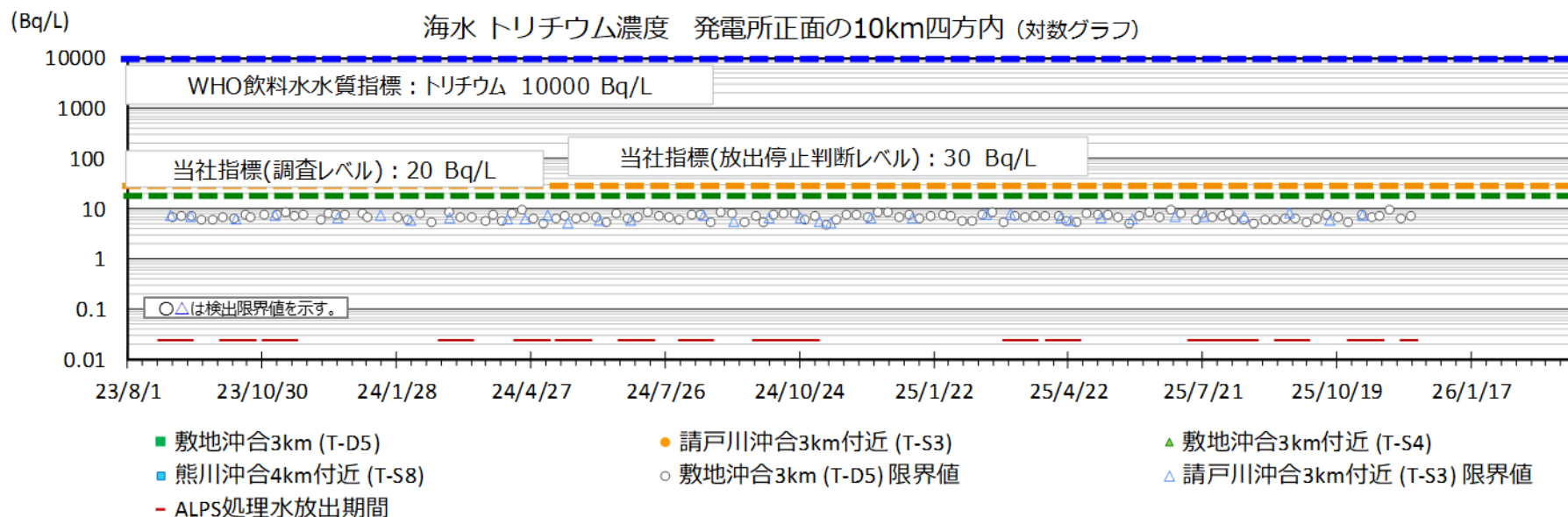
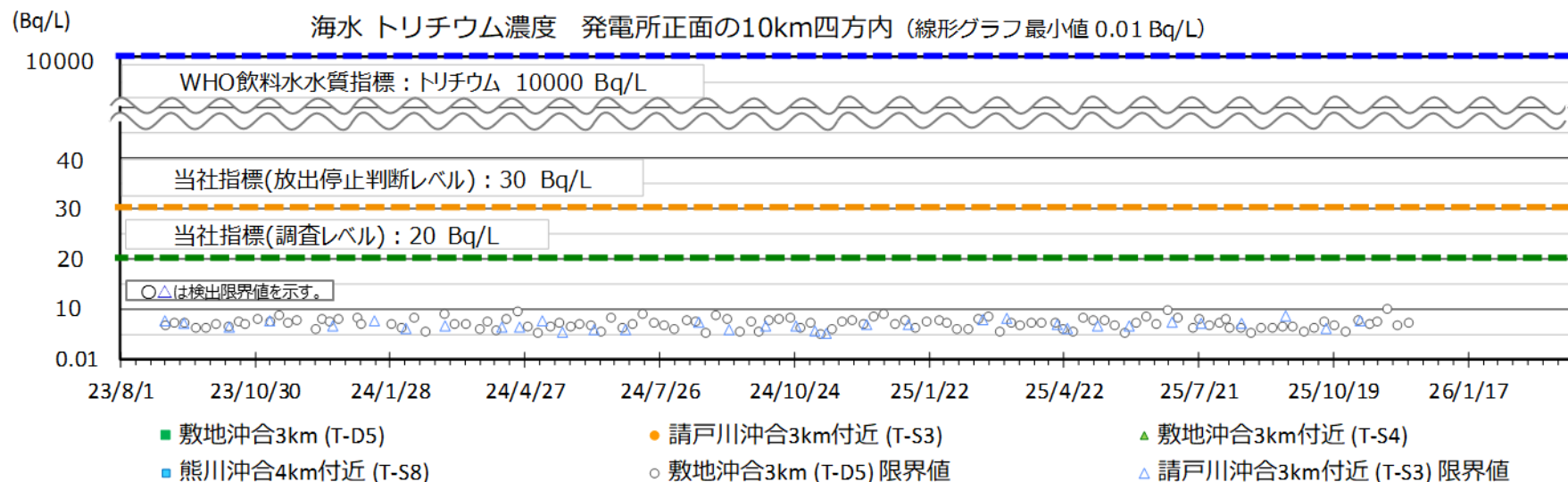
迅速モニタリング

TEPCO

3km圏内



10km四方内



【補足】 海域モニタリングの計画 迅速モニタリング

- 海水トリチウム濃度を迅速に把握するため、検出限界目標値を10 Bq/Lとした迅速モニタリングを開始し、放出停止を判断する指標（放出停止判断レベル）を設定

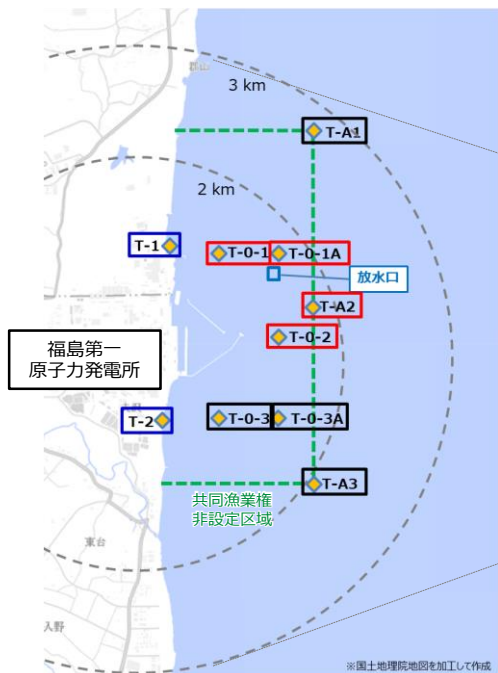


図1 海水採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

■ ■ ■ : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）
指標（放出停止判断レベル） 700 Bq/L
指標（調査レベル） 350 Bq/L

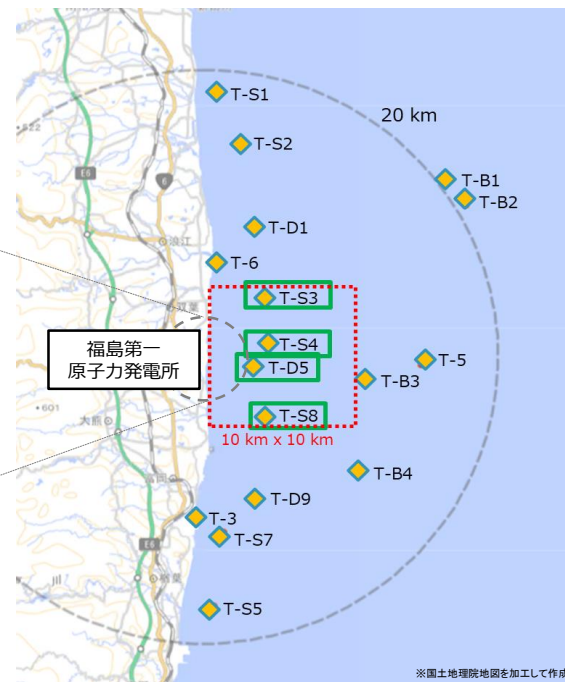


図2 海水採取地点 発電所正面の10km四方内

■ : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）
指標（放出停止判断レベル） 30 Bq/L
指標（調査レベル） 20 Bq/L

	【図1】 発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】 発電所正面の10km四方内
	放水口周辺4地点 ■	その他6地点 ■ ■	4地点 ■
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2 ■ の迅速に結果を得る測定を行う

※2 2023年8月の放出開始以降の放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した [\(2023年12月25日公表\)](#)

【補足】海水のトリチウム濃度の比較

【参考】海水のトリチウム濃度の比較



※1：原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓを飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準
※2：出典「日本の環境放射能と放射線」（期間：2019/4～2022/3）

3 - 1. 2025年度の設備点検の概要

- 2024年度同様、2025年度も下表の通りの定例点検を実施。
- 2025年度の第6回目（管理番号：25-6-17）の放出は、希釈／取水設備の点検と並行して行う（次頁参照）。

設備名	主な点検内容	点検状況
測定・確認用設備	測定・確認用タンクC群：全面内面点検	点検中
	循環ポンプ：分解点検	完了（異常なし（次頁以降で報告））
	攪拌機器：絶縁抵抗測定他	点検中
	その他：ストレーナ清掃等	点検中
移送設備	ALPS処理水移送ポンプ：軸受け潤滑油交換	2025年12月より点検開始予定
	緊急遮断弁-1：分解点検	2026年1月より点検開始予定
	緊急遮断弁-2：外観点検	2026年1月より点検開始予定
	その他：ストレーナー清掃等	点検中
希釈設備	海水移送ポンプA系：分解点検※	点検中
	海水移送ポンプB系：グランドパッキン交換	2025年12月より点検開始予定
	海水移送ポンプC系：グランドパッキン交換	2025年12月より点検開始予定
	海水移送配管・海水配管ヘッダ：内面点検	2025年12月より点検開始予定
	放水立坑（上流水槽）：内面点検	2025年12月より点検開始予定
放水設備	放水立坑（下流水槽）、放水トンネル：内面点検	2025年12月より点検開始予定
取水設備	仕切堤：外観点検	2025年12月より点検開始予定
	取水路A系：清掃、内面点検、補修※	点検中

【補足】概略点検工程

■ 2025年度の概略点検工程（2025年12月時点）は以下の通り。

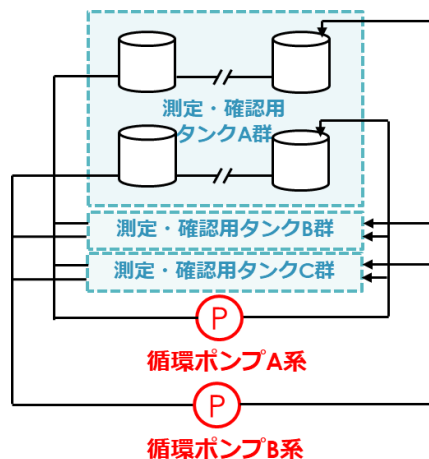
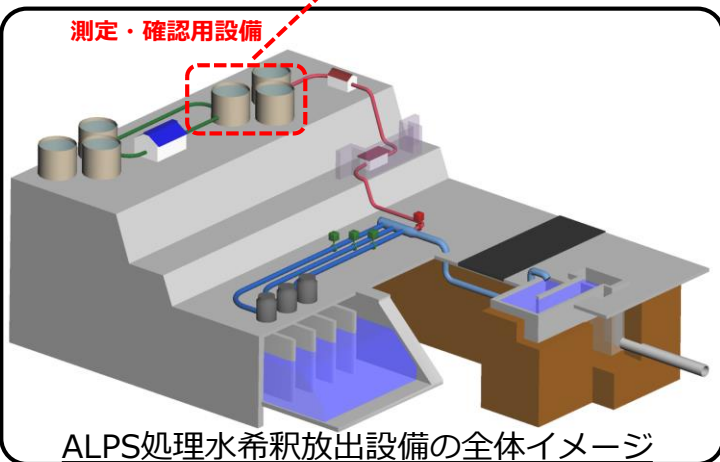
点線：作業進捗により変更の可能性有り

	2025年度					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
放出工程	▽10/30～11/17 25-5-16		▽現在 25-6-17			25-7-18
測定・確認用設備	循環ポンプ C群タンク全面内面点検（2025年11月～2026年5月頃まで） 攪拌機器、ストレーナ等其他設備（2025年8月～2026年5月頃まで 各タンク群の設備停止期間に実施）					
移送設備	ALPS処理水移送ポンプ 緊急遮断弁-1 緊急遮断弁-2 C群タンク周りの設備についてはタンク点検に合わせて2026年5月頃完了の見込み					
希釈設備	水路構成概略図 港湾側 点検中隔離 A系水路 B系水路 点検 運転 運転 海水移送ポンプ ※1 取水路は、「A系：海水移送ポンプA系」「B系：海水移送ポンプB・C系」でエリアを隔離できるため、A系点検中にB系の運転が可能					
放水設備	海水移送ポンプ A系※1 海水移送ポンプ B・C系 海水移送配管・海水配管ヘッダ 放水立坑（上流水槽） 放水立坑（下流水槽）・放水トンネル					
取水設備	取水路 A系※1 取水路 A系点検中に、管理番号：25-6-17放出を実施					

3-2. 循環ポンプの点検結果について

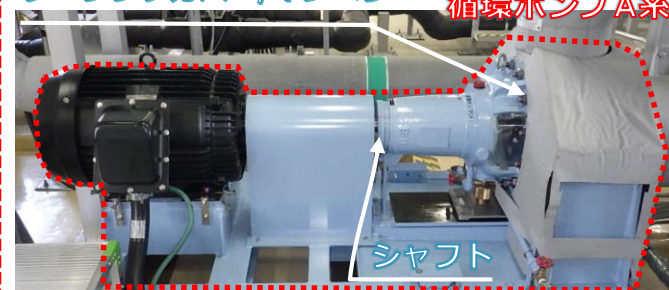
- 点検計画に基づき循環ポンプA系及びB系の分解点検を実施し、腐食等の異常がないことを確認。循環ポンプA系の点検状況写真を以下に示す。

測定・確認用設備



ケーシングカバー/インペラ

循環ポンプA系



<循環ポンプA系全景>

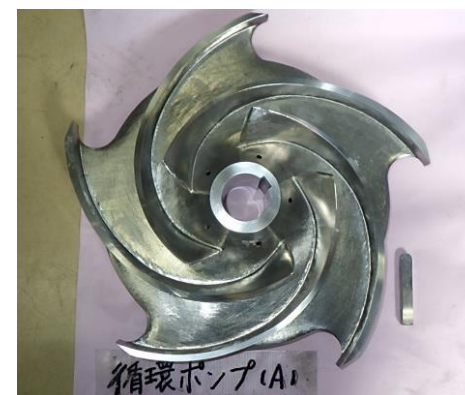
分解点検状況



<シャフト>



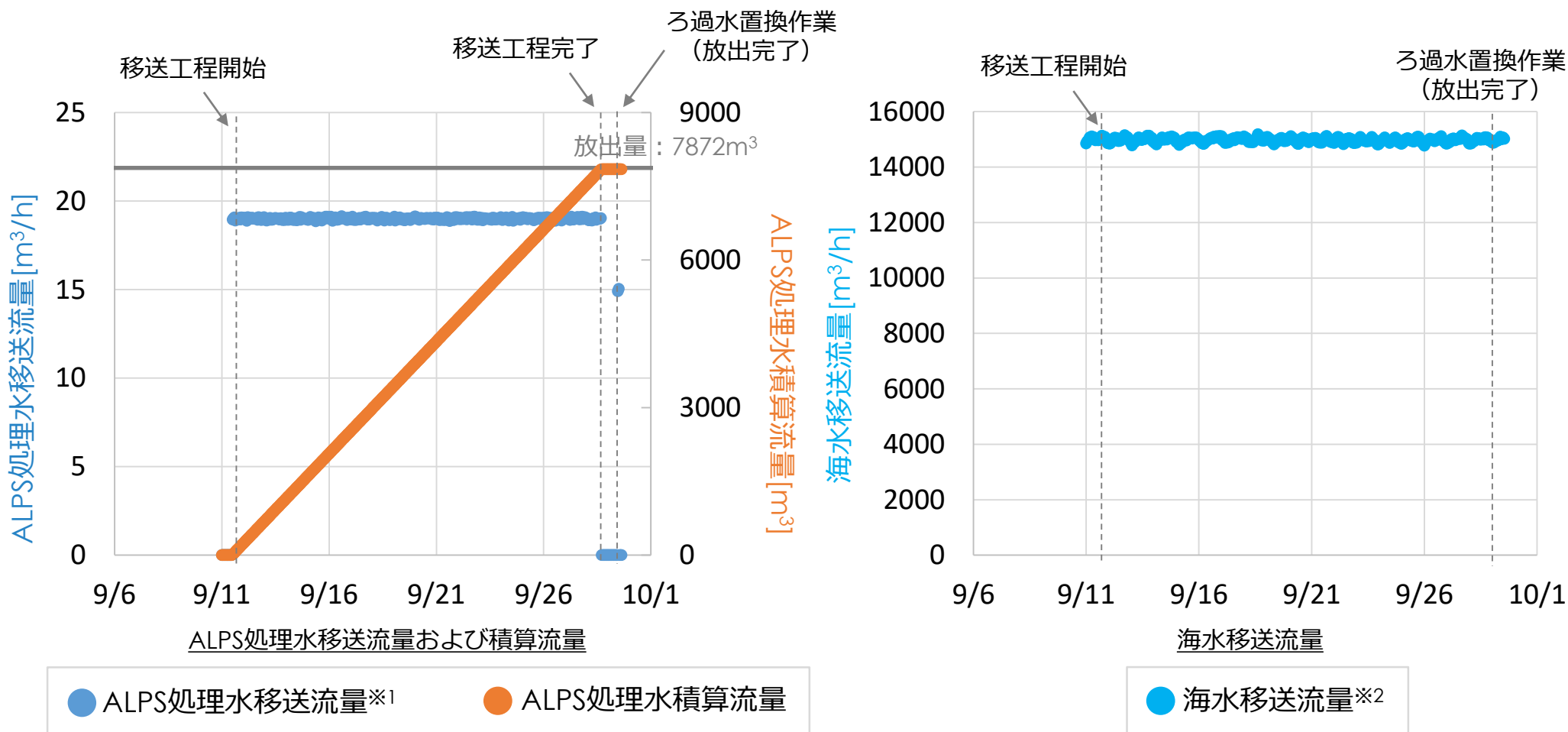
<ケーシングカバー>



<インペラ>

以下、参考

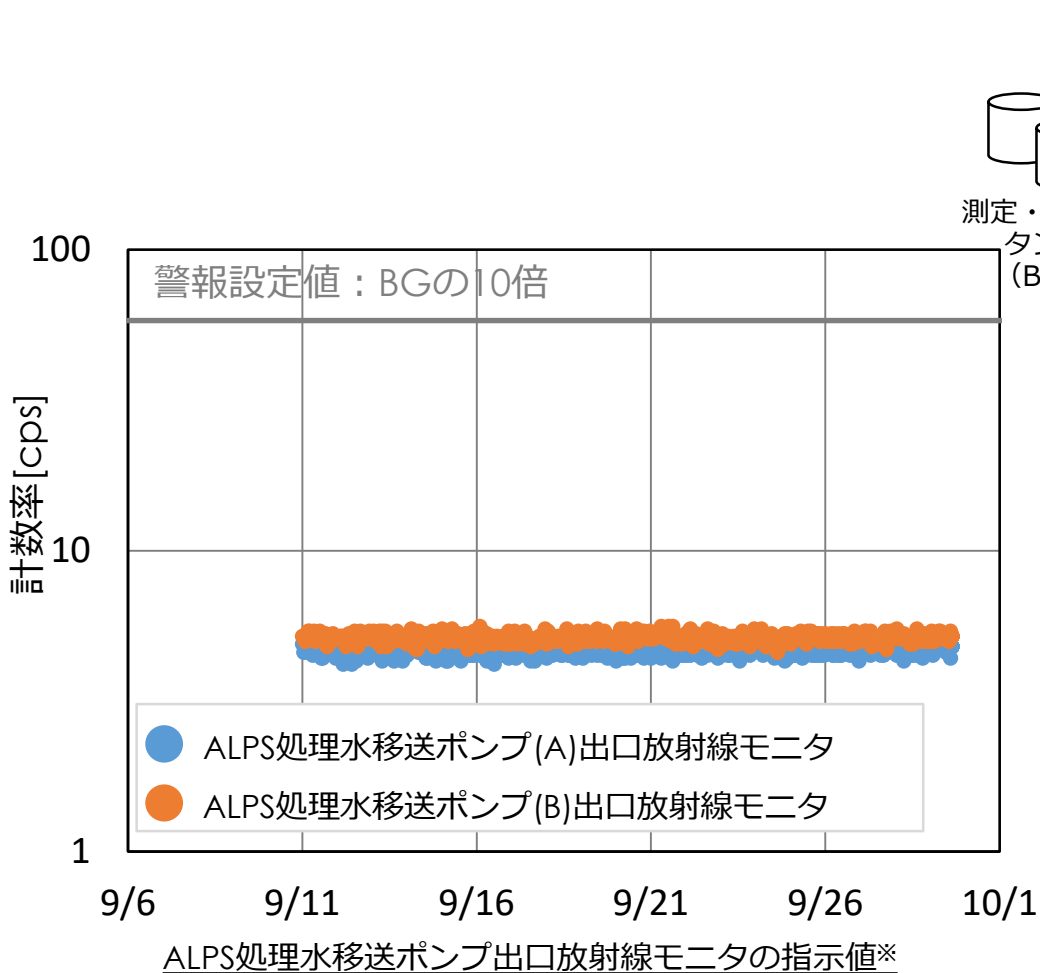
- ALPS処理水移送系統および海水系統ともに異常無く、運転することができた。



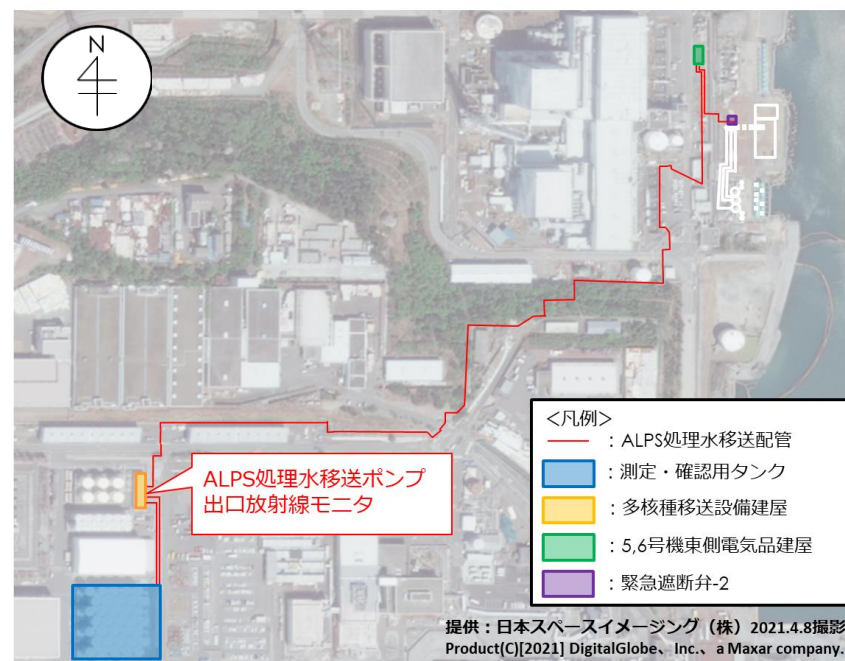
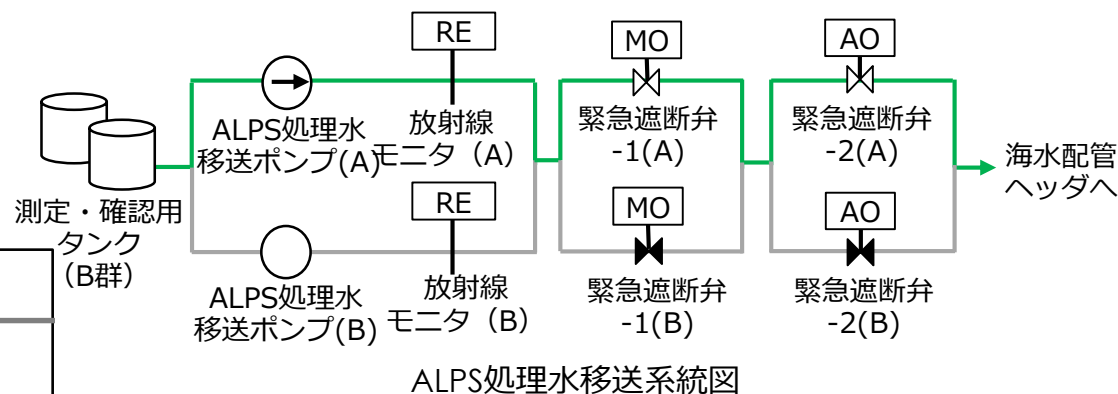
※1: 流量計は2重化しているため、2つの値のうち、高い方をプロット

※2: 2系統の合計値をプロット

- ALPS処理水移送ポンプ出口放射線モニタの指示値から異常は確認されなかった。



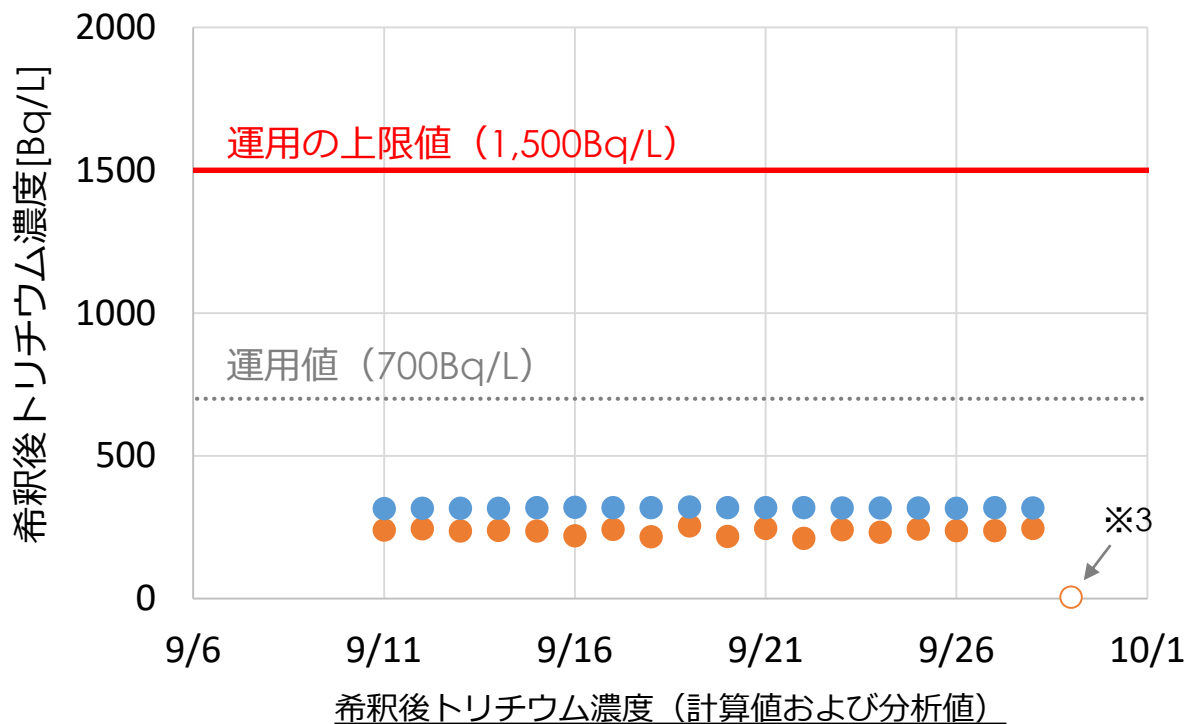
※ : 右上図の通り、A系にALPS処理水を通水。(B系はろ過水が充填)



ALPS処理水希釈放出設備平面図

(参考1) 管理番号 (25-4-15) 放出期間中の希釈後トリチウム濃度

- 放出期間中は毎日、海水配管ヘッダ下流の水を採取し、トリチウム濃度を分析。
⇒運用の上限値である1,500Bq/L未満であることを確認。



● 計算値※1

● 分析値 (検出値)

○ 分析値 (検出限界値未満)

※1: 以下の式を用いて算出
(各パラメータには、不確かさを考慮している)

希釈後トリチウム濃度 (計算値)

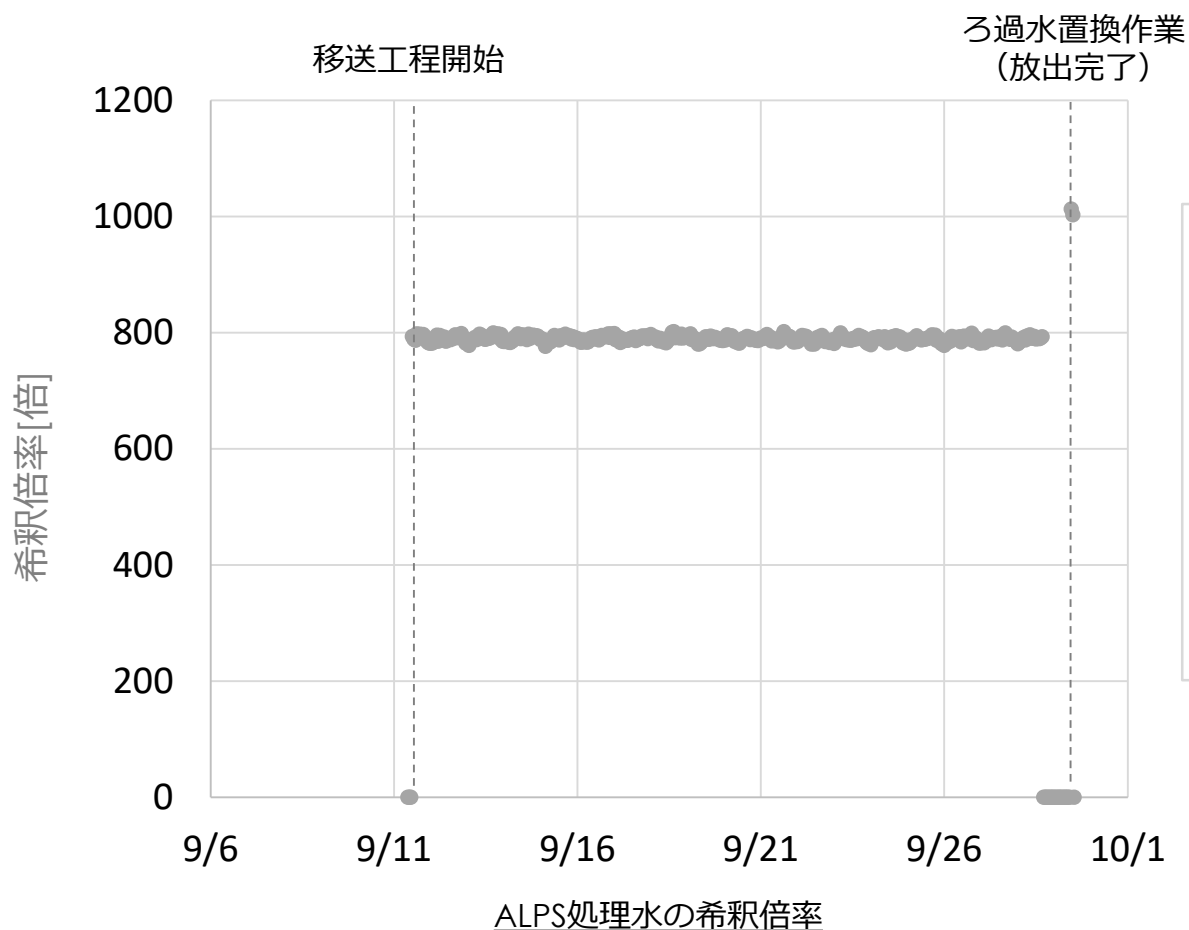
$$= \frac{\text{ALPS処理水トリチウム濃度}^{\ast 2} \times \text{ALPS処理水流量}}{\text{海水流量} + \text{ALPS処理水流量}}$$

※2: 測定・確認用タンクでの分析値

※3: ろ過水置換作業を実施しているため、計算値は無い。

	9/11	9/12～9/28	9/29
計算値：データ抽出時間	18:00	7:00	—
分析値：試料採取時間	18:32	6:00～9:00	12:05

- ALPS処理水の希釈倍率は常時100倍以上で運転。



● 希釈倍率※1

※1：以下の式を用いて算出

$$\text{希釈倍率} = \frac{\text{海水流量}^{\ast 2} + \text{ALPS処理水流量}^{\ast 3}}{\text{ALPS処理水流量}^{\ast 3}}$$

※2：2系統の合計値

※3：流量計は2重化しているため、
2つの値のうち、高い方の値か
ら算出

(参考1) 海域モニタリングの実績

第15回放出期間（2025/9/11～2025/9/29）の海域モニタリング実績（1/2）

海域モニタリング実績表（トリチウム濃度）

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	2025年9月										
			11日*4	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	<5.9	-	-	-	<6.5	-	-	<5.8	-	-	-
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	<5.9	-	-	-	<6.6	-	-	<5.8	-	-	-
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<7.4	<7.1	<5.5	<6.9	<8.4	<6.4	<7.7	<7.7	<8.2	<5.1	<8.5
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<5.9	<5.6	<6.7	<7.1	<8.4	<6.5	<7.7	9.0	<7.2	<6.3	<7.0
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<7.4	<7.1	<5.5	<6.9	<8.3	<6.4	<7.7	<6.1	<8.2	12	<8.5
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	-	<5.7	-	-	<8.3	-	-	<8.5	-	-	-
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	-	<5.7	-	-	<8.3	-	-	<7.7	-	-	-
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	-	<7.3	-	-	<8.3	-	-	<8.5	-	-	-
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<7.4	<7.3	<6.7	<7.1	<8.2	<6.5	<7.1	<8.5	<7.2	<6.3	<7.0
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	-	<7.3	-	-	<8.2	-	-	<8.5	-	-	-
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	-	-	-	-	<6.6	-	-	-	-	-	-
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<8.7	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<8.7	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<8.7	-	-	-	-

※：<○ は検出限界値○Bq/L未滿を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「【補足】海域モニタリングの計画」を参照

*4：放出開始後の13時以降に採取

(参考1) 海域モニタリングの実績

第15回放出期間（2025/9/11～2025/9/29）の海域モニタリング実績（2/2）

海域モニタリング実績表（トリチウム濃度）

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	2025年9月							
			22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日*4
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	<6.3	-	-	<5.6	-	-	-	<5.6
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	<6.3	-	-	<5.6	-	-	-	<5.6
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<6.0	<8.4	<7.5	<5.6	<6.2	<6.1	-*5	<8.6
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<5.9	<7.2	23	<7.8	<5.4	<7.8	-*5	<8.6
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<6.0	<8.4	<7.5	<7.8	<6.2	<6.1	-*5	<8.5
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	<7.1	-	-	<7.6	-	-	-	<5.6
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	<6.0	-	-	<7.8	-	-	-	<8.5
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	<7.1	-	-	<7.6	-	-	-	<5.6
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<7.1	<7.2	<7.2	<7.6	<5.4	<7.7	-*5	<5.6
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	<7.1	-	-	<7.6	-	-	-	<5.6
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	<6.4	-	-	-	-	-	-	<5.6
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-

※：<〇 は検出限界値〇Bq/L未滿を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「【補足】海域モニタリングの計画」を参照

*4：放出終了前の9時以前に採取 *5：悪天候のため採取中止

(参考1) 海域モニタリングの実績

第16回放出期間（2025/10/30～2025/11/17）の海域モニタリング実績（1/2）

海域モニタリング実績表（トリチウム濃度）

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	2025年10月		2025年11月								
			30日*4	31日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
放水口付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	<6.8	-	-	-	<6.9	-	-	<6.2	-	-	-
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	<6.8	-	-	-	<6.9	-	-	<6.2	-	-	-
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<8.0	<8.2	-*5	<5.5	<6.9	<7.7	<7.5	6.6	<7.3	<5.8	<6.1
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<8.0	16	-*5	<8.6	35	<4.7	43	11	<6.5	<7.2	<6.5
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<8.0	<8.2	-*5	<5.6	<5.6	<7.7	<7.5	8.7	<7.3	<5.8	<6.2
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	<5.4	-	-	-	<5.6	-	-	<6.3	-	-	-
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	<8.0	-	-	-	<5.6	-	-	<6.3	-	-	-
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	<5.5	-	-	-	<6.4	-	-	<7.0	-	-	-
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<5.5	<7.0	-*5	<8.6	<6.4	4.7	<7.7	<7.0	<6.5	<7.2	<6.5
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	<5.5	-	-	-	<6.4	-	-	<7.0	-	-	-
放水口付近の外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	-	-	-	-	-	-	<7.7	-	-	-	-
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<7.6	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<7.7	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-	<7.6	-	-	-	-

※：<○ は検出限界値○Bq/L未滿を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「【補足】海域モニタリングの計画」を参照

*4：放出開始後の13時以降に採取 *5：悪天候のため採取中止

(参考1) 海域モニタリングの実績

第16回放出期間（2025/10/30～2025/11/17）の海域モニタリング実績（2/2）

海域モニタリング実績表（トリチウム濃度）

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	2025年11月							
			10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日*4
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	<6.3	-	-	<6.4	-	-	-	<7.4
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	<6.3	-	-	<6.4	-	-	-	<7.4
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<6.3	<6.9	<7.0	<6.4	6.1	<7.0	<7.7	<7.4
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<8.0	21	13	13	33	<7.0	30	<7.3
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<8.0	<6.9	<7.0	<8.3	<5.6	<7.0	<7.7	<7.3
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	<8.0	-	-	<8.3	-	-	-	<6.1
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	<8.0	-	-	<8.3	-	-	-	<7.3
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	<9.0	-	-	<8.0	-	-	-	<6.0
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<9.0	<6.4	<6.9	<8.0	<8.1	<7.0	<7.7	<6.0
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	<9.0	-	-	<8.0	-	-	-	<6.0
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	-	-	<6.9	-	-	-	-	<7.4
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-

※：<○ は検出限界値○Bq/L未満を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「【補足】海域モニタリングの計画」を参照

*4：放出終了前の9時以前に採取

(参考1) 海域モニタリングの実績

第17回放出期間（2025/12/4～2025/12/9）の海域モニタリング実績

海域モニタリング実績表（トリチウム濃度）

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	2025年12月					
			4日*4	5日	6日	7日	8日	9日
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	<6.7	-	-	-	<7.3	-
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	<6.8	-	-	-	<7.2	-
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<7.3	<7.6	<5.3	<8.1	<7.7	<6.9
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<7.2	<7.5	<6.4	8.5	18	<8.4
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<7.1	<7.6	<5.3	<8.1	<7.7	<6.9
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	<6.1	-	-	-	<8.1	-
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	<7.2	-	-	-	<7.7	-
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	<6.1	-	-	-	<8.1	-
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<6.1	<7.5	<6.4	<7.6	<8.1	<8.5
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	<6.1	-	-	-	<8.1	-
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	-	-	-	-	<7.3	-
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-

※：<○ は検出限界値○Bq/L未滿を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

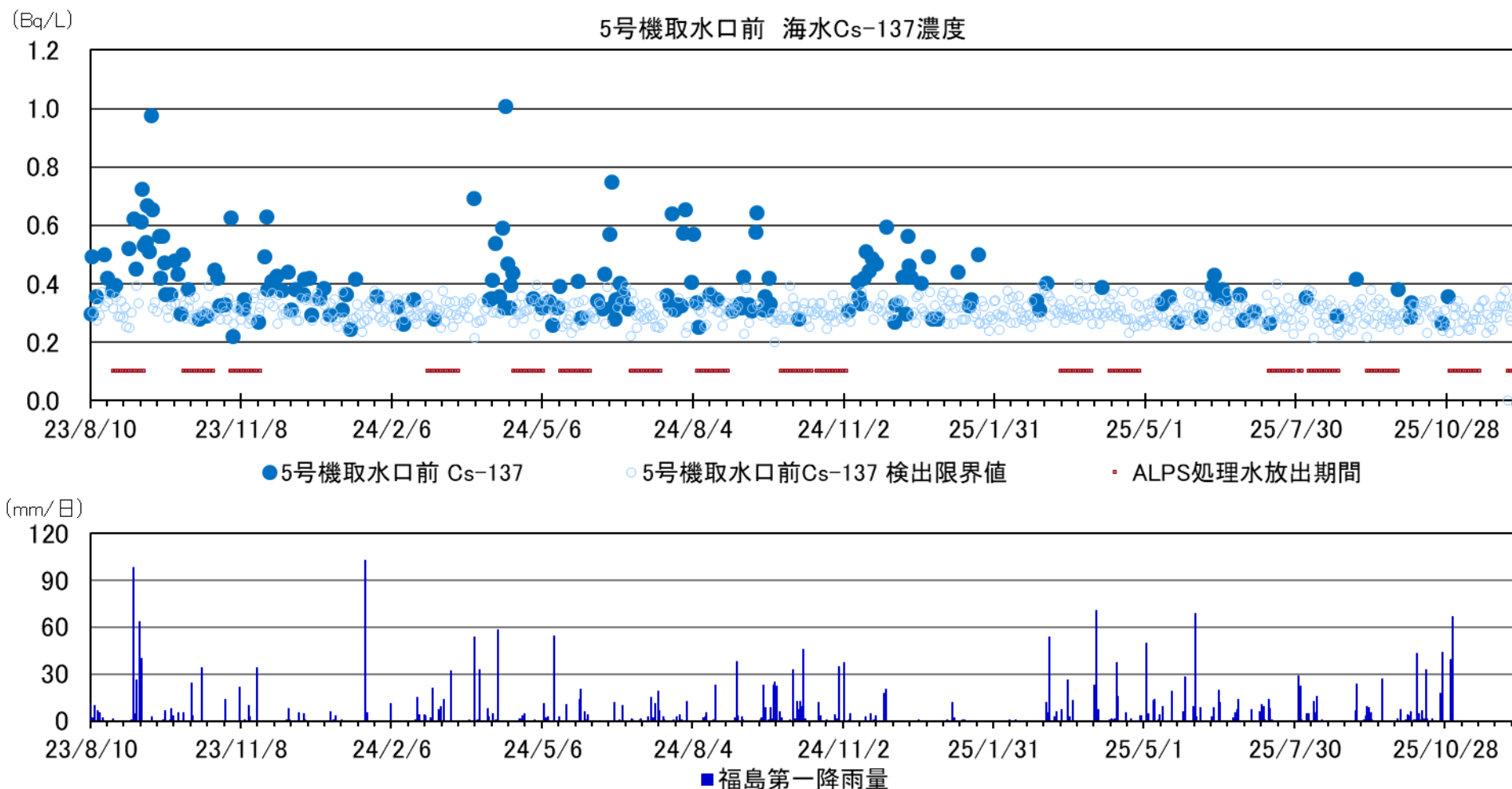
*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「【補足】海域モニタリングの計画」を参照

*4：放出開始後の13時以降に採取

(参考1) 5号機取水水路のモニタリングについて

- ALPS処理水の放出期間中の希釈用海水の取水口付近での海水モニタリング結果は、放出停止期間中の値と同程度であることを確認している。



(参考2-1) 測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量 **TEPCO**

- 管理番号：25-4-15における、測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量[Bq]は以下の通り。（それぞれの分析値※¹[Bq/L]と放出量（7,872m³）から算出。）

※1：告示濃度比総和は0.012となり、1未満であることを確認

- なお、分析値が検出限界値未満（ND）である核種の放射能総量は算出しない。

核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]	核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]	核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]
C-14	3.7E+01	2.9E+08	Cd-113m	<6.7E-02	—	U-234※ ³	<3.7E-02	—
Mn-54	<2.7E-02	—	Sb-125	1.8E-01	1.4E+06	U-238※ ³	<3.7E-02	—
Fe-55	<1.7E+01	—	Te-125m※ ²	6.5E-02	5.1E+05	Np-237※ ³	<3.7E-02	—
Co-60	4.6E-01	3.6E+06	I-129	5.0E-01	3.9E+06	Pu-238※ ³	<3.7E-02	—
Ni-63	<8.1E+00	—	Cs-134	<3.3E-02	—	Pu-239※ ³	<3.7E-02	—
Se-79	<9.6E-01	—	Cs-137	2.5E-01	2.0E+06	Pu-240※ ³	<3.7E-02	—
Sr-90	1.9E-01	1.5E+06	Pm-147※ ²	<3.2E-01	—	Pu-241※ ²	<1.0E+00	—
Y-90※ ²	1.9E-01	1.5E+06	Sm-151※ ²	<1.2E-02	—	Am-241※ ³	<3.7E-02	—
Tc-99	<3.0E-01	—	Eu-154	<7.2E-02	—	Cm-244※ ³	<3.7E-02	—
Ru-106	<2.3E-01	—	Eu-155	<1.7E-01	—			

※2：放射平衡等により分析値を評価

※3：全α測定値

(参考2-2) 測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量 **TEPCO**

- 管理番号：25-5-16における、測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量[Bq]は以下の通り。（それぞれの分析値※¹[Bq/L]と放出量（7,838m³）から算出。）

※1：告示濃度比総和は0.14となり、1未満であることを確認

- なお、分析値が検出限界値未満（ND）である核種の放射能総量は算出しない。

核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]	核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]	核種	分析値 [Bq/L]	放射能 総量[Bq]
C-14	3.7E+01	2.9E+08	Cd-113m	<7.0E-02	—	U-234※ ³	<2.7E-02	—
Mn-54	<2.3E-02	—	Sb-125	1.7E-01	1.3E+06	U-238※ ³	<2.7E-02	—
Fe-55	<1.4E+01	—	Te-125m※ ²	6.2E-02	4.9E+05	Np-237※ ³	<2.7E-02	—
Co-60	4.1E-01	3.2E+06	I-129	3.7E-01	2.9E+06	Pu-238※ ³	<2.7E-02	—
Ni-63	<8.9E+00	—	Cs-134	<2.7E-02	—	Pu-239※ ³	<2.7E-02	—
Se-79	<1.1E-01	—	Cs-137	2.1E-01	1.6E+06	Pu-240※ ³	<2.7E-02	—
Sr-90	1.1E-01	8.6E+06	Pm-147※ ²	<3.0E-01	—	Pu-241※ ²	<7.3E-01	—
Y-90※ ²	1.1E-01	8.6E+06	Sm-151※ ²	<1.2E-02	—	Am-241※ ³	<2.7E-02	—
Tc-99	<3.5E-01	—	Eu-154	<6.8E-02	—	Cm-244※ ³	<2.7E-02	—
Ru-106	<2.2E-01	—	Eu-155	<1.6E-01	—			

※2：放射平衡等により分析値を評価

※3：全α測定値